



Sun StorEdge™ 3000 Family ソフトウェアインストールガイド

Sun StorEdge Configuration Service 1.5

Sun StorEdge Diagnostic Reporter 1.5

Sun StorEdge Command-Line Interface 1.6

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-6632-10
2004年7月、改訂第A版

本文書に関するコメントの送り先: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright © 2002-2004 Dot Hill Systems Corporation, 6305 El Camino Real, Carlsbad, California 92009, USA. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および Dot Hill Systems Corporation は、本製品または文書に含まれる技術に関する知的所有権を所有していることがあります。特に、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に記載される米国特許権が 1 つ以上、あるいは、米国およびその他の国における追加特許権または申請中特許権が 1 つ以上、制限なく含まれている場合があります。

本製品または文書は、その使用、複製配布、およびデコンパイルを制限するライセンスの下に配布されます。Sun およびそのライセンサ (該当する場合) からの書面による事前の許可なく、いかなる手段や形態においても、本製品または文書の全部または一部を複製することを禁じます。

サードパーティソフトウェアは、Sun のサプライヤより著作権およびライセンスを受けています。

本製品の一部は Berkeley BSD システムより派生したもので、カリフォルニア大学よりライセンスを受けています。UNIX は、米国およびその他の国における登録商標であり、X/Open Company, Ltd. からの独占ライセンスを受けています。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Sun StorEdge、AnswerBook2、docs.sun.com、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。Netscape は、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の商標または登録商標です。

米国政府の権利 - 商用。政府内ユーザーは、Sun Microsystems, Inc. の標準ライセンス契約、および該当する FAR の条項とその補足条項の対象となります。

本文書は "ASIS (現状のまま)" として提供されるもので、商品性、特定用途の適合性、または非侵害性に対するすべての暗黙的保証を含め、すべての明示的または暗黙的條件、表明、および保証を、そのような放棄が法律上無効とされる場合を除き放棄します。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

序文 xi

1. はじめに 1

リリースノート 1

スーパーユーザー特権 1

オペレーティングシステム情報 2

ソフトウェアのアップグレード - エージェントおよびコンソールのバージョン互換性 2

2. Solaris ホストでの Sun StorEdge Configuration Service のインストール 3

Sun StorEdge Configuration Service のインストールの前に 3

システム要件 4

ソフトウェアのインストール 5

ソフトウェアのアップグレード - エージェントおよびコンソールのバージョン互換性 5

インストールパッケージ 6

▼ エージェントおよびコンソールをインストールするには 6

▼ エージェントを停止または起動するには 11

ユーザーとパスワード 12

管理 (ユーザー) セキュリティレベルとガイドライン 12

▼ パスワードと許可を作成するには 13

Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール 14

▼ Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールするには 14

構成の復元 15

障害追跡 15

3. Microsoft Windows ホストでの Sun StorEdge Configuration Service のインストール 17

システム要件 17

ソフトウェアのインストール 18

ソフトウェアのアップグレード - エージェントおよびコンソールのバージョン互換性 19

インストールパッケージ 19

▼ エージェントおよびコンソールをインストールするには 19

▼ Microsoft Windows NT ホストでエージェントを停止または起動するには 20

▼ Microsoft Windows 2000 および Microsoft Windows 2003 ホストでエージェントを停止または起動するには 20

ユーザーとパスワード 21

管理 (ユーザー) セキュリティレベルとガイドライン 21

複数サーバーに対するグローバルパスワード 22

▼ Microsoft Windows NT ユーザーを作成するには 22

▼ Microsoft Windows 2000 または Microsoft Windows 2003 ユーザーを作成するには 22

Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール 23

▼ Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールするには 23

4. Linux ホストでの Sun StorEdge Configuration Service のインストール 25

システム要件 25

ソフトウェアのインストール 26

ソフトウェアのアップグレード - エージェントおよびコンソールのバージョン互換性 26

インストールパッケージ 27

▼ エージェントおよびコンソールをインストールするには 27

▼ エージェントを停止または起動するには 29

ユーザーとパスワード 30

管理 (ユーザー) セキュリティレベルとガイドライン 30

▼ パスワードと許可を作成するには	31
Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール	32
▼ Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールするには	32
5. HP-UX ホストでの Sun StorEdge Configuration Service のインストール	33
システム要件	33
ソフトウェアのインストール	34
ソフトウェアのアップグレード - エージェントおよびコンソールのバージョン互換性	34
インストールパッケージ	35
▼ エージェントおよびコンソールをインストールするには	35
▼ コンソールを表示するには	36
▼ エージェントを停止または起動するには	37
ユーザーとパスワード	38
管理 (ユーザー) セキュリティレベルとガイドライン	38
▼ パスワードと許可を作成するには	39
Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール	40
▼ Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールするには	40
6. IBM AIX ホストでの Sun StorEdge Configuration Service のインストール	41
システム要件	41
ソフトウェアのインストール	42
インストールパッケージ	42
ソフトウェアのアップグレード - エージェントおよびコンソールのバージョン互換性	43
▼ エージェントおよびコンソールをインストールするには	43
▼ エージェントを停止または起動するには	44
ユーザーとパスワード	45
管理 (ユーザー) セキュリティレベルとガイドライン	45
▼ パスワードと許可を作成するには	46
Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール	47
▼ Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールするには	47

7. Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール 49

システム要件 50

ソフトウェアのインストール 50

インストールパッケージ 51

Solaris ホストの言語サポート 51

- ▼ Solaris ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をインストールするには 52
- ▼ Microsoft Windows ホストで Diagnostic Reporter をインストールするには 53
- ▼ Linux ホストで Diagnostic Reporter をインストールするには 54
- ▼ HP-UX ホストで Diagnostic Reporter をインストールするには 55
- ▼ IBM AIX ホストで Diagnostic Reporter をインストールするには 56

Sun StorEdge Diagnostic Reporter の手動による停止および起動 57

- ▼ Solaris または Linux ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止および起動するには 57
- ▼ Microsoft Windows NT ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止および起動するには 58
- ▼ Microsoft Windows 2000 または 2003 ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止および起動するには 58
- ▼ HP-UX ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止および起動するには 58
- ▼ IBM AIX ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止および起動するには 59

Sun StorEdge Diagnostic Reporter のアンインストール 59

- ▼ Solaris ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をアンインストールするには 59
- ▼ Linux ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をアンインストールするには 59
- ▼ Microsoft Windows ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をアンインストールするには 60
- ▼ HP-UX ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をアンインストールするには 60
- ▼ IBM AIX ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をアンインストールするには 60

8. コマンド行インタフェースのインストールとアクセス 61

CLI をインストールする前に 61

システム要件 62

ソフトウェアのインストール 62

インストールパッケージ 62

▼ Solaris ホストで CLI をインストールするには 63

▼ 日本語版の man ページをインストールするには 63

▼ Microsoft Windows ホストで CLI をインストールするには 63

▼ Linux ホストで CLI をインストールするには 64

▼ HP-UX ホストで CLI をインストールするには 65

▼ IBM AIX ホストで CLI をインストールするには 65

CLI のアンインストール 66

▼ Solaris ホストで CLI をアンインストールするには 66

▼ 日本語版の man ページをアンインストールするには 66

▼ Microsoft Windows ホストで CLI をアンインストールするには 66

▼ Linux ホストで CLI をアンインストールするには 67

▼ HP-UX ホストで CLI をアンインストールするには 67

▼ IBM AIX ホストで CLI をアンインストールするには 67

索引 69

表

表 2-1	Solaris OS のコンソールシステム要件	4
表 2-2	Solaris OS のエージェントシステム要件	4
表 2-1	Solaris OS 言語サポートに必要な Sun StorEdge Configuration Service のインストールパッケージ	6
表 3-1	Microsoft Windows OS のコンソールシステム要件	18
表 3-2	Microsoft Windows OS のエージェントシステム要件	18
表 4-1	Linux OS のコンソールシステム要件	25
表 4-2	Linux OS のエージェントシステム要件	26
表 5-1	HP-UX OS のコンソールシステム要件	33
表 5-2	HP-UX OS のエージェントシステム要件	34
表 6-1	IBM AIX OS のコンソール システム要件	41
表 6-2	IBM AIX OS のエージェント システム要件	42
表 7-1	Sun StorEdge Diagnostic Reporter のシステム要件	50
表 7-2	Sun StorEdge Diagnostic Reporter インストールパッケージ	51
表 7-3	Solaris OS 言語サポートに必要な Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストールパッケージ	51
表 8-1	CLI のシステム要件	62
表 8-1	コマンド行インタフェースのインストールパッケージ	62

序文

本書では、Sun StorEdge™ Configuration Service、Sun StorEdge Diagnostic Reporter、およびコマンド行インタフェース (CLI) のインストール方法を説明します。

Sun StorEdge Configuration Service を使用すると、グラフィカルユーザーインタフェース (GUI) を通じて Sun StorEdge 3000 Family 製品を監視および管理することができます。Sun StorEdge Configuration Service の使用方法の詳細は、『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』を参照してください。

Sun StorEdge Diagnostic Reporter は、Sun StorEdge Configuration Service のコンパニオンユーティリティで、ストレージシステムイベントを指定した電子メールアドレスに報告します。Sun StorEdge Diagnostic Reporter の使用方法の詳細は、『Sun StorEdge 3000 Family Diagnostic Reporter ユーザーズガイド』を参照してください。

CLI を使用すると、Sun StorEdge Configuration Service またはファームウェアアプリケーションと同じ操作の多くを実行できます。CLI の使用方法の詳細は、『Sun StorEdge 3000 Family CLI ユーザーズガイド』を参照してください。

他に特に規定がなければ、Sun StorEdge 3120 SCSI アレイ、Sun StorEdge 3310 SCSI アレイ、Sun StorEdge 3510 FC アレイおよび Sun StorEdge 3511 FC アレイを、「アレイ」と呼びます。

本書は、Sun のハードウェアおよびソフトウェア製品の使用に習熟した上級のシステム管理者を対象として書かれています。

本書の構成

このマニュアルでは次のトピックを扱っています。

第 1 章では、Sun StorEdge Configuration Service、Sun StorEdge Diagnostic Reporter、またはコマンド行インタフェース (CLI) をインストールする前に知っておく必要のある事項を説明します。

第 2 章では、Solaris™ ホストにおける、Sun StorEdge Configuration Service エージェントおよびコンソールのシステム要件とインストール手順を説明します。

第 3 章では、Microsoft Windows NT、Microsoft Windows 2000、および Microsoft Windows 2003 ホストにおける Sun StorEdge Configuration Service エージェントおよびコンソールのシステム要件とインストール手順を説明します。

第 4 章では、Linux ホストにおける、Sun StorEdge Configuration Service エージェントおよびコンソールのシステム要件とインストール手順を説明します。

第 5 章では、HP-UX ホストにおける、Sun StorEdge Configuration Service エージェントおよびコンソールのシステム要件とインストール手順を説明します。

第 6 章では、IBM AIX ホストにおける、Sun StorEdge Configuration Service エージェントおよびコンソールのシステム要件とインストール手順を説明します。

第 7 章では、Sun StorEdge Diagnostic Reporter のシステム要件とインストール手順を説明します。

第 8 章では、CLI のシステム要件とインストール手順を説明します。

UNIX コマンドの使用

基本的な UNIX® コマンドに関する情報や、システムのシャットダウンと起動、デバイスの構成などの手順は、本文書では説明されていない場合があります。その詳細については、次の資料を参照してください。

- 各システムに付属のソフトウェア文書
- 以下のサイトにある Solaris オペレーティングシステムの文書

<http://docs.sun.com>

シェルプロンプト

シェル	プロンプト
C シェル	<i>machine-name%</i>
C シェルのスーパーユーザー	<i>machine-name#</i>
Bourne シェルと Korn シェル	\$
Bourne シェルと Korn シェルのスーパーユーザー	#

表記規約

書体 ¹	意味	例
AaBbCc123	コマンド、ファイル、ディレクトリの名前。画面に表示されるコンピュータ出力	.login ファイルを編集します。 ls -a を使って、全ファイルを一覧表示 します。 % You have mail.
AaBbCc123	画面上のコンピュータ出力と区別し、ユーザーが入力する内容	% su Password:
<i>AaBbCc123</i>	書名、新しい用語、語句の強調。コマンド行変数に対して入力する実際の名前または値	これらは <i>class</i> オプションと呼ばれます。 ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と 入力します。

¹ これらの書体は、使用しているブラウザの設定により異なる場合があります。

関連文書

Sun StorEdge 3000 Family 製品の関連マニュアルの全リストは、使用しているアレイの『Sun StorEdge 3000 Family 導入・運用・サービスマニュアル』を参照してください。

Sun 文書へのアクセス

Sun StorEdge 3000 Family に関する文書はすべて、PDF および HTML 形式で、次の URL からオンラインで入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Network_Storage_Solutions/Workgroup/

次の URL は、SCSI アレイおよび FC アレイ専用です。

<http://docs.sun.com/db/coll/3120SCSIarray>

<http://docs.sun.com/db/coll/3310SCSIarray>

<http://docs.sun.com/db/coll/3510FCarray>

<http://docs.sun.com/db/coll/3511FCarray>

広範な Sun 文書類は、次のサイトから表示、印刷、または購入することができます。

<http://www.sun.com/documentation>

テクニカルサポート

最新の技術情報や障害追跡に関するヒントは、ご使用のレイのリリースノートを、次の適切なディレクトリから入手してください。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Network_Storage_Solutions/Workgroup/

本製品に関する技術的な疑問で、本書で回答が得られないものについては、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

アメリカでのサービスリクエストの開始またはお問い合わせは、次の Sun サポートにご連絡ください。

800-USA-4SUN

国際テクニカルサポートについては、次のサイトから該当国のセールスオフィスにご連絡ください。

<http://www.sun.com/service/contacting/sales.html>

508 アクセシビリティ機能

Sun StorEdge 文書は、視覚障害を持つ方の支援テクノロジープログラムと共に使用できる、508 条に準拠した HTML ファイルで入手できます。これらのファイルは、使用する製品の文書 CD に収められているほか、前述の「Sun 文書へのアクセス」に記載されている Web サイトでも入手できます。さらに、ソフトウェアアプリケーションとファームウェアアプリケーションではキーボードナビゲーションとショートカットも使用可能です。これらに関する説明はユーザーズガイドに記載されています。

本書に対するご意見

Sun では、よりよいマニュアル作成のため、皆様からのご意見やご提案を歓迎します。コメントがありましたら下記へお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、次に示すご使用のマニュアルのタイトルと Part No. をお書き添えください。『Sun StorEdge 3000 Family ソフトウェアインストールガイド』、Part No. 817-6632-10

はじめに

この章では、Sun StorEdge Configuration Service、Sun StorEdge Diagnostic Reporter、CLI をインストールする前に知っておく必要のある重要事項を説明します。この章でふれるトピックは以下のとおりです。

- [1 ページの「リリースノート」](#)
- [1 ページの「スーパーユーザー特権」](#)
- [2 ページの「オペレーティングシステム情報」](#)

リリースノート

使用しているアレイのリリースノートを読んで、このマニュアルの対象のオペレーティングシステムが、使用している StorEdge Family 製品のサポート対象であることを確認してください。また他のサポート対象ソフトウェアの詳細も確認してください。

スーパーユーザー特権

Sun StorEdge Configuration Service、Sun StorEdge Diagnostic Reporter、および CLI をインストールして、Sun StorEdge Configuration Service コンソールを実行するには、スーパーユーザー (管理者) になります。

オペレーティングシステム情報

このセクションでは、オペレーティングシステム (OS) に関する情報を扱います。

- Sun StorEdge 3310 SCSI アレイ、Sun StorEdge 3510 FC アレイ、および Sun StorEdge 3511 FC アレイの場合は、Sun StorEdge Configuration Service をインストールする前に、次の操作を行います。
 - OS アップデートをインストールする。Sun StorEdge Configuration Service を Solaris ホストで使用するには、最新の Sun 推奨 OS パッチと Java™ Runtime Environment ソフトウェアパッチをインストールします。Sun 推奨パッチのリストは、使用しているアレイのリリースノートを参照してください。
 - Sun StorEdge Configuration Service エージェントをインストールするホストサーバーが、プライマリ ID が割り当てられたチャンネルに接続されていることを確認する。コントローラのデフォルト値と初期構成情報については、『Sun StorEdge 3000 Family 導入・運用・サービスマニュアル』を参照してください。
 - サーバーがストレージに接続されていて、サーバーがストレージを認識することを確認する。
- Sun StorEdge 3310 SCSI アレイの場合は、Sun StorEdge Configuration Service を Solaris ホストにインストールする前に、OS が同じ ID で複数の論理ユニット番号 (LUN) を認識できることを確認します。追加のホスト LUN 割り当てには、`/kernel/drv/sd.conf` の修正が必要になることもあります。このファイルの修正方法の詳細は、使用しているアレイの『Sun StorEdge 3000 Family 導入・運用・サービスマニュアル』を参照してください。`sd.conf` ファイルを変更した場合は、変更を有効にするためにワークステーションをリブートする必要があります。
- OS にエンタープライズ管理コンソールが含まれている場合、SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) サービスを使用してトラップイベントをコンソールに送信するように、エージェントを構成することができます。SNMP サービスは OS に含まれており、TCP/IP プロトコルスタックのインストール後にインストールされます。ネットワーク上のサーバーが SNMP トラップをエンタープライズ管理コンソールに送信するようには、『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』の付録「電子メールと SNMP」を参照してください。

ソフトウェアのアップグレード・エージェントおよびコンソールのバージョン互換性

通信プロトコルがバージョンごとに変更されるため、アップグレード時にはエージェントおよびコンソールの両方をインストールする必要があります。異なるバージョンのエージェントおよびコンソールが共存している場合は、Sun StorEdge Configuration Service は以前構成されたアレイを検出することができません。

Solaris ホストでの Sun StorEdge Configuration Service のインストール

この章では、Solaris ホストに Sun StorEdge Configuration Service コンソールおよびエージェントをインストールする手順を説明します。この章でふれるトピックは以下のとおりです。

- 3 ページの「Sun StorEdge Configuration Service のインストールの前に」
- 4 ページの「システム要件」
- 5 ページの「ソフトウェアのインストール」
- 12 ページの「ユーザーとパスワード」
- 14 ページの「Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール」
- 15 ページの「構成の復元」
- 15 ページの「障害追跡」

Sun StorEdge Configuration Service のインストールの前に

プログラムとその関連ソフトウェアコンポーネントをインストールする前に、以下の手順を実行してください。

- 使用しているアレイのリリースノートを読む。
- OS アップデートをインストールする。Sun StorEdge Configuration Service を Solaris ホストで使用するには、Solaris 8 および Solaris 9 OS 用の最新の Sun 推奨 OS パッチと Java Runtime Environment ソフトウェアパッチをインストールする必要があります。Sun 推奨パッチのリストは、使用しているアレイのリリースノートを参照してください。

システム要件

このセクションでは、Solaris ホストのシステム要件を説明します。

- Netscape Navigator™ Web ブラウザ - オンラインヘルプを表示するには Web ブラウザが必要です。4.0 以前のバージョンはサポートされません。
- TCP/IP 準拠のネットワークインタフェース - 各コンソールには TCP/IP 準拠のネットワークインタフェース (Ethernet、トークンリングネットワークカード、またはモデム付きのシリアルラインなど) が必要です。各エージェントには、TCP/IP 準拠のネットワークインタフェースおよびドライバセット (オペレーティングシステムに付属) が必要です。
- カラーモニター - コンソールは、解像度 1024 x 768 ピクセルで 256 色のモニターを使用すると最適な表示になります。
- OS、メモリー、およびディスク空き容量 - 表 2-1 に Solaris OS のコンソールシステム要件を示します。表 2-2 には Solaris OS のエージェントシステム要件を示します。

表 2-1 Solaris OS のコンソールシステム要件

Solaris の OS バージョン	メモリー	ディスク空き容量
Sun 推奨パッチ付き Solaris 2.6	256 M バイトが必要	40 M バイト以上
SPARC プラットフォームの Sun 推奨パッチ付き Solaris 8 および Solaris 9	512 M バイトを推奨	100 M バイトを推奨
Sun 推奨パッチ付き Solaris 9 x86 Platform Edition (9 08/03)		
Sun 推奨パッチのリストは、使用しているアーカイブのリリースノートを参照してください		

表 2-2 Solaris OS のエージェントシステム要件

Solaris の OS バージョン	メモリー	ディスク空き容量
Sun 推奨パッチ付き Solaris 2.6	128 M バイトが必要	20 M バイト以上
SPARC プラットフォームの Sun 推奨パッチ付き Solaris 8	512 M バイトを推奨	100 M バイトを推奨
Sun 推奨パッチ付き Solaris 9 x86 Platform Edition (9 08/03)		
Sun 推奨パッチのリストは、使用しているアーカイブのリリースノートを参照してください		

ソフトウェアのインストール

Sun StorEdge Configuration Service は、以下のコンポーネントから構成されます。

- Sun StorEdge Configuration Service エージェント
- Sun StorEdge Configuration Service コンソール
- Sun StorEdge Diagnostic Reporter (オプションユーティリティ)
- コマンド行インタフェース (CLI)

Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストールの詳細は、[49 ページの「Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール」](#)を参照してください。CLI のインストールの詳細は、[61 ページの「コマンド行インタフェースのインストールとアクセス」](#)を参照してください。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をインストールする前に、使用しているアレイのリリースノートを読んでください。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をインストールし、コンソールを実行するには、スーパーユーザーである必要があります。

ソフトウェアのアップグレード - エージェントおよびコンソールのバージョン互換性

通信プロトコルがバージョンごとに変更されるため、アップグレード時にはエージェントおよびコンソールの両方をインストールする必要があります。異なるバージョンのエージェントおよびコンソールが共存している場合は、Sun StorEdge Configuration Service は以前構成されたアレイを検出することができません。

インストールパッケージ

Sun StorEdge Configuration Service エージェントおよびコンソールのインストールパッケージは、Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD に収録されています。Solaris OS の Sun StorEdge Configuration Service は、フランス語、日本語、中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、韓国語の言語サポートを提供します。表 2-1 は、各言語に必要なファイルを示しています。

注 – 各言語では、コンソールとエージェント用に英語版のインストールパッケージが必要です。

表 2-1 Solaris OS 言語サポートに必要な Sun StorEdge Configuration Service のインストールパッケージ

	英語	フランス語	日本語	中国語 (簡体字)	中国語 (繁体字)	韓国語
エージェント	SUNWscsd	SUNWscsd	SUNWscsd	SUNWscsd	SUNWscsd	SUNWscsd
		SUNWfscsd	SUNWjscsd	SUNWcscsd	SUNWtscsd	SUNWkscsd
コンソール	SUNWscsu	SUNWscsu	SUNWscsu	SUNWscsu	SUNWscsu	SUNWscsu
		SUNWfscsu	SUNWjscsu	SUNWcscsu	SUNWtscsu	SUNWkscsu

▼ エージェントおよびコンソールをインストールするには

Sun StorEdge Configuration Service を構成する各サーバーにエージェントをインストールしてください。コンソールは、ストレージシステムの維持管理に使用するコンピュータとワークステーションにインストールします。

コンソールはサーバーまたは任意のクライアントシステムにインストールできます。エージェントは、ストレージが接続されるサーバーにインストールします。

エージェント、コンソール、またはその両方をインストールするには、以下の手順を完了してください。プログラムを実行するには、少なくとも 1 つのエージェントと 1 つのコンソールをインストールする必要があります。

英語版のパッケージのみをインストールする場合は、英語版の指示にだけ従ってください。言語サポートを追加する場合は、英語版のプログラムを最初にインストールします。

アップグレードする場合は、エージェントおよびコンソールの両方をインストールする必要があります。異なるバージョンのエージェントおよびコンソールが共存している場合は、Sun StorEdge Configuration Service は以前構成されたアレイを検出することができません。

注 – Sun StorEdge Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。Solaris 2.6 ホストの Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.3.1 です。Solaris 8 または 9 ホストの Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.2 です。

注 – コンソールまたはエージェントをアップグレードする場合は、以前のバージョンの Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールします。アンインストールの詳細は、14 ページの「[Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール](#)」を参照してください。

1. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/product/solaris/$ARCH
```

ここで \$ARCH は、Solaris の OS バージョンにより sparc または i386 のどちらかです。

2. パッケージを次のどれかの方法でインストールします。

- エージェント (英語版) のみをインストールする場合は、次のように入力します。

```
# pkgadd -d .SUNWscsd
```

- (省略可能) 言語サポートを追加する場合は、次のように入力します。

```
# pkgadd -d .SUNWxscsd
```

ここで *x* は、インストールする言語に応じて f、j、c、t または k のどれかです。パッケージ名については、表 2-1 を参照してください。

- コンソール (英語版) だけをインストールする場合は、次のように入力します。

```
# pkgadd -d .SUNWscsu
```

- (省略可能) 言語サポートを追加する場合は、次のように入力します。

```
# pkgadd -d .SUNW $x$ scsu
```

ここで x は、インストールする言語に応じて f、j、c、t または k のどれかです。インストールパッケージ名については、[表 2-1](#) を参照してください。

- 全部のパッケージをインストールする場合は、次のように入力します。

```
# pkgadd -d . all
```

- メニューからインストールするパッケージを選択する場合は、次のように入力します。

```
# pkgadd -d .
```

- 英語版の両エージェント (Sun StorEdge Configuration Service と Sun StorEdge Diagnostic Reporter) をインストールする場合は、次のように入力します。

```
# pkgadd -d .SUNWscsd SUNWscsa
```

- (省略可能) 言語サポートを追加する場合は、次のように入力します。

```
# pkgadd -d .SUNW $x$ scsd SUNW $x$ scs
```

ここで x は、インストールする言語に応じて f、j、c、t または k のどれかです。インストールパッケージ名については、[表 2-1](#) を参照してください。Sun StorEdge Diagnostic Reporter のパッケージ名については、[49 ページの「Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール」](#) を参照してください。

3. 標準インストールプロンプトのそれぞれに対して、適切な応答を入力します。

インストールプロンプトは、インストールするパッケージの選択と、スーパーユーザー特権を持つときのスクリプトの処理方法に関する標準の pkgadd プロンプトです。

- a. Select パッケージプロンプトで、インストール方法に応じた適切な応答を入力します。

たとえば、エージェント (英語版) のみをインストールする場合は、1 を入力して Return キーを押します。


```
Select package (s) you wish to process (or all to process all
packages). (default:all) [?,??,q]: 1
```

エージェントの構成を復元するかどうか尋ねられたら、**y** を入力します。**n** と入力した場合は、管理サーバーを再び有効にします。

```
The previous configuration was saved.User passwords must be
reentered.Do you want to restore the configuration [y,n,?,q]:y
```

注 – Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールすると、ユーザーパスワードは削除されます。以前の構成が存在する場合、**12 ページの「ユーザーとパスワード」**にあるように、ssmon、ssadmin および ssconfig の各パスワードを再び入力します。

コンソールの構成を復元するかどうか尋ねられたら、**y** を入力します。**n** と入力した場合は、サーバー情報を再び追加します。

```
The previous configuration was saved.Do you want to restore the
configuration [y,n,?,q]:y
```

b. インストールを続行するには、y を入力して Return キーを押します。

```
Do you want to continue with the installation [y,n,?] y
```

エージェントのインストールが完了したら、エージェントのインストールが成功し、起動したことを示す次のメッセージが表示されます。

```
Configuring and starting Sun StorEdge (tm) Configuration Service agent
daemons:
    The configuration is complete.
    Sun StorEdge (tm) Configuration Service agent server daemon has
started.
    Sun StorEdge (tm) Configuration Service agent monitor daemon
has started.
Sun StorEdge (tm) Configuration Service agent startup is complete.

Installation of <SUNWscsd> was successful.
```

インストールプログラムによって、Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていることが確認されます。Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.2 です。インストールプログラムがそのソフトウェアを見つけられない場合、パスを指定するよう求めら

れます。Java Runtime Environment 1.2.2、1.3、または 1.4 ソフトウェアがインストールされていることがわかっている場合、インストールプログラムがそれを見つけられない場合、/usr ディレクトリをチェックし、最新バージョンへのリンクがあることを確認します。リンクの作成方法は、15 ページの「障害追跡」を参照してください。

エージェントおよびコンソールは /opt/SUNWsscs/sscsconsole にインストールされます。

インストールが完了したら、エージェントは自動的に起動します。

4. オンラインヘルプにアクセスするには、Web ブラウザへのパスを指定します。

a. /opt/SUNWsscs/sscsconsole に移動し、次のように入力します。

```
./config_sscon
```

b. Web ブラウザへの絶対パスを入力します。

注 – Web ブラウザのパス名はいつでも構成できますが、いずれかの時点で指定しないとオンラインヘルプにアクセスできません。

5. Sun StorEdge 3310 SCSI アレイについては、LUN 0 以外の LUN がアレイからホストおよび Sun サーバーの内蔵 HBA にマップされている場合、またはデバイスの接続にサードパーティ HBA が使用されている場合に /kernel/drv/sd.conf を編集します。

使用する構成に応じて、LUN の行を追加します。LUN には、0 ~ 31 の番号を付けることができます。通常は、実際に備える以上の LUN 定義は追加しません。追加すると、各 SCSI バスをスキャンするために必要な時間が増えてしまうからです。sd.conf ファイルの修正方法の詳細は、使用しているアレイの『Sun StorEdge 3000 Family 導入・運用・サービスマニュアル』を参照してください。

6. sd.conf ファイルを編集した場合は、再構成を反映するためにリポートを行います。

sd.conf ファイルを編集してない場合は、再構成を反映するためにリポートを行う必要はなく、エージェントは自動的に起動します。

▼ エージェントを停止または起動するには

エージェントは、`/etc/init.d/ssagent` にある実行コマンドスクリプトを使って、手動で停止および起動できます。

1. エージェントを停止するには、次のように入力します。

```
# /etc/init.d/ssagent stop
```

2. エージェントを起動するには、次のように入力します。

```
# /etc/init.d/ssagent start
```

注 - エージェントを起動するには、スーパーユーザーである必要があります。

最初に `stop` を使用せずに、`start` を使った場合、スクリプトは、停止されていた任意のエージェントを再起動します。すべてのエージェントが (たとえば `stop` オプションで) 停止されていた場合、スクリプトは実行環境を再設定してからエージェントを再起動します。

3. エージェントが実行されているか確認するには、次のように入力します。

```
# ps -e | grep ss
```

`ssmon` と `ssserver` の両方が出力に表示されます。SNMP トラップ生成を有効にしてあった場合は、その名前 `sstrapd` も表示されます。

4. 最初のレポート後にストレージシステムが表示されなかった場合は、エージェントを停止し、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
# format
```

5. 目的のディスクにラベルを付けたあと、エージェントを再起動します。

ユーザーとパスワード

以下のセクションではユーザーとパスワードの作成方法について説明します。

管理 (ユーザー) セキュリティレベルとガイドライン

Solaris ホストでプログラムを実行する場合、管理セキュリティレベルはインストールプロセスで自動的に作成されます。必要な操作は、許可レベルに応じてパスワードを設定し、ユーザーを割り当てることです。

管理機能によりアクセスログインとパスワードが要求され、管理者がほかのクライアントやホストに属するストレージリソースを許可なく再割り当てしたり削除したりすることが防がれます。

プログラムの3つのセキュリティレベルに個別のパスワードを割り当ててください。これを行うには、プログラムで管理されるストレージデバイスを持つエージェントに3つのユーザーをセットアップします。この3つのユーザーは、エージェントのインストール時に自動的に追加されます。

セキュリティレベルの名前は、次のとおりでなければなりません。

- **ssmon**

ソフトウェアの監視レベルを表します。

- **ssadmin**

ソフトウェアの管理レベルを表します。リビルド、パリティチェック、およびパリティチェックのスケジュールの機能へのアクセスと、監視機能を提供します。

- **ssconfig**

ソフトウェアの構成レベルを表します。インストーラーに、構成機能およびプログラムのその他の関連機能への直接アクセスを提供します。

3つのセキュリティレベルにはこれらのログイン名が必要です。インストールの後、各セキュリティ名にパスワードを割り当てる必要があります。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールすると、ユーザーパスワードは削除されます。以前の構成が存在する場合、ssmon、ssadmin および ssconfig の各パスワードを再度入力する必要があります。

ssmon、ssadmin、および ssconfig の名前は、プログラムのセキュリティレベルのみに対応するログイン名です。UNIX 動作環境では、ユーザー ID が対話的なログインに使用されることを防ぐために、これらのアカウントのデフォルトシェルは /bin/false に割り当てられます。

Sun StorEdge Configuration Service は、ユーザーが `ssmon` パスワードを入力せずに監視機能を実行できるようにセットアップできます。これを行うには、コンソールでサーバーを「管理サーバー」リストに追加するときに、「自動発見」オプションを選択します。この 3 つのログインとパスワードは各サーバー上でローカルにセットアップできます。必要であれば、これらのアカウントにサーバーごとに異なるパスワードを設定することもできます。

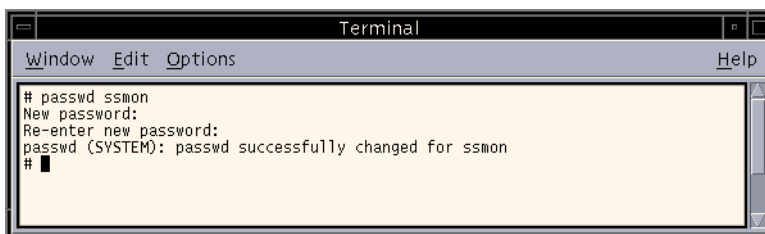
管理するエージェントにこの 3 つのログイン名をセットアップしたあと、システム管理者は通常、タスクの完了に必要なセキュリティレベルに基づいてユーザーに適切なパスワードを割り当てることにより、プログラムへのユーザーアクセスを提供します。たとえば、特定のサーバーに対する管理特権を持つものは全員、ユーザー `ssadmin` 用に確立された同じパスワードが割り当てられます。

注 - 「管理サーバー」リストにサーバーを追加するには、『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』を参照してください。

▼ パスワードと許可を作成するには

各新規ユーザーにパスワードを作成するには、次のように入力します。

```
# passwd user-name
```



管理者はグループ許可を変更することもできます。グループ許可は、インストール時の `/opt/SUNWsscs/sscsconsole` ディレクトリにある `svrlist.dat` ファイルで定義されています。

コンソールは Java テクノロジベースのユーティリティであるため、Sun StorEdge Configuration Service が作成するファイルの許可や所有権を制御する機能は提供しません。`svrlist.dat` ファイルは、各種の ASCII テキストプロセッサで容易に取り出すことができます。このファイルには、ユーザー `ssmon` の暗号化されたパスワードが含まれており、解読可能です。

注 – 監視するエージェントをすべて追加したあとで、`svrlist.dat` の許可とグループ所有権を変更しないでください。

Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール

コンソールまたはエージェントをアップグレードする場合は、以前のバージョンの Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールします。一部のファイルは削除されませんが、その理由はこれらがインストールの後に作成され、アップグレード環境でも有効だからです。

▼ Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールするには

`pkgrm` コマンドの後に、アンインストールするパッケージを指定します。

注 – フランス語、日本語、または中国語 (簡体字) の言語サポートを追加している場合は、英語版パッケージをアンインストールする前に、それらのパッケージをアンインストールする必要があります。

```
# pkgrm package-name
```

ここで *package-name* は、アンインストールするパッケージです。パッケージ名のリストは、[6 ページの「インストールパッケージ」](#) を参照してください。

構成の復元

エージェントまたはコンソールを再インストールする場合、インストールの実行中に構成を復元するかどうか尋ねられます。構成を復元するように選択した場合、以下のファイルから情報が復元されます。

- /var/opt/SUNWsscscs/sscsagt.cfg.tar - Sun StorEdge Configuration Service エージェント
- /var/opt/SUNWsscscs/sscscon.cfg.tar - Sun StorEdge Configuration Service コンソール

注 – Sun StorEdge Configuration Service を削除する場合は、これらのファイルを手動で削除してもかまいません。しかし、後でプログラムを再インストールする場合は、これらが削除されていると、エージェントの構成およびコンソールの構成を復元できなくなります。

障害追跡

マシンには既に Java Runtime Environment 1.2.2、1.3、または 1.4 がインストールされていても、Sun StorEdge Configuration Service のインストール時に、`java -version` を実行すると 1.2.2 より前のソフトウェアバージョンが出力されることがあります。この状況が発生した場合は、Java Runtime Environment ソフトウェアから最新バージョンへのリンクがあることを確認します。

/usr ディレクトリをチェックし、次のように入力して最新バージョンの Java Runtime Environment へのリンクがあることを確認します。

```
# cd /usr
ls | grep java
```

リンクが上記の最新バージョンの Java へのリンクではない場合は、次のように入力します。

```
rm java
ln -s /usr/xxx /usr/java
```

ここで、xxx は Java Runtime Environment ソフトウェアの最新バージョンです。

Microsoft Windows ホストでの Sun StorEdge Configuration Service のインストール

この章では、Microsoft Windows NT、Microsoft Windows 2000、および Microsoft Windows 2003 ホストに Sun StorEdge Configuration Service コンソールおよびエージェントをインストールする手順を説明します。この章でふれるトピックは以下のとおりです。

- 17 ページの「システム要件」
- 18 ページの「ソフトウェアのインストール」
- 21 ページの「ユーザーとパスワード」
- 23 ページの「Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール」

システム要件

このセクションでは、Microsoft Windows ホストのシステム要件を説明します。

- Netscape Navigator または Microsoft Internet Explorer Web ブラウザ - オンラインヘルプを表示するには Web ブラウザが必要です。4.0 以前のバージョンはサポートされません。
- コンソール用の TCP/IP 準拠のネットワークインタフェース - 各コンソールには TCP/IP 準拠のネットワークインタフェース (Ethernet、トークンリングネットワークカード、またはモデム付きのシリアルラインなど) が必要です。各エージェントには、TCP/IP 準拠のネットワークカードインタフェースおよびドライバセット (オペレーティングシステムに付属) が必要です。
- カラーモニター - コンソールは、解像度 1024 x 768 ピクセルで 256 色のモニターを使用すると最適な表示になります。

- OS、メモリ、およびディスク空き容量 - 表 3-1 に Microsoft Windows ホストのコンソールシステム要件を示します。表 3-2 には Microsoft Windows ホストのエージェントシステム要件を示します。

表 3-1 Microsoft Windows OS のコンソールシステム要件

Microsoft Windows の OS バージョン	メモリ	ディスク空き容量
Microsoft Windows NT 4.0 (Service Pack 6A)	64 M バイト以上 512 M バイトを推奨	40 M バイト以上 400 M バイトを推奨
Microsoft Windows 2000 (Service Pack 3)		
Microsoft Windows 2003		

表 3-2 Microsoft Windows OS のエージェントシステム要件

Microsoft Windows の OS バージョン	メモリ	ディスク空き容量
Microsoft Windows NT 4.0 (Service Pack 6A)	最小 64 M バイト、512 M バイト以上を推奨。要件は、データベースなど、ほかの大型アプリケーションプログラムにより決定される	20 M バイト以上 400 M バイトを推奨
Microsoft Windows 2000 (Service Pack 3)		
Microsoft Windows 2003		

ソフトウェアのインストール

Sun StorEdge Configuration Service は、以下のコンポーネントから構成されます。

- Sun StorEdge Configuration Service エージェント
- Sun StorEdge Configuration Service コンソール
- Sun StorEdge Diagnostic Reporter (オプションユーティリティ)
- コマンド行インタフェース (CLI)

Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストールの詳細は、49 ページの「[Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール](#)」を参照してください。CLI のインストールの詳細は、61 ページの「[コマンド行インタフェースのインストールとアクセス](#)」を参照してください。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をインストールする前に、使用しているアレイのリリースノートを読んでください。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をインストールして、コンソールを実行するには、管理者の特権が必要です。

ソフトウェアのアップグレード - エージェントおよびコンソールのバージョン互換性

通信プロトコルがバージョンごとに変更されるため、アップグレード時にはエージェントおよびコンソールの両方をインストールする必要があります。異なるバージョンのエージェントおよびコンソールが共存している場合は、Sun StorEdge Configuration Service は以前構成されたアレイを検出することができません。

インストールパッケージ

Configuration Service インストールパッケージ (setup.exe) は、Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD にあり、以下のコンポーネントが含まれています。

- Sun StorEdge Configuration Service エージェント
- Sun StorEdge Configuration Service コンソール

▼ エージェントおよびコンソールをインストールするには

Sun StorEdge Configuration Service で管理されるストレージを持つ各 Microsoft Windows NT、Microsoft Windows 2000 または Microsoft Windows 2003 サーバーにエージェントをインストールする必要があります。コンソールは、ストレージシステムの維持管理に使用するコンピュータとワークステーションにインストールしてください。

アップグレードする場合は、エージェントおよびコンソールの両方をインストールする必要があります。異なるバージョンのエージェントおよびコンソールが共存している場合は、Sun StorEdge Configuration Service は以前構成されたアレイを検出することができません。

注 - コンソールのインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.2 です。

1. ソフトウェアインストールユーティリティ機能が最適に動作するように、動作中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、\product\windows ディレクトリに移動します。
3. setup.exe をダブルクリックし、インストールするソフトウェア コンポーネントとして SUNWsscs Agent または SUNWsscs Console を選択します。

4. 「Choose Destination Location」 ウィンドウで、デフォルトフォルダをインストールし、「Next」をクリックします。

エージェントは、C:\Program Files\Sun\ssagent にインストールされます。コンソールは、C:\Program Files\Sun\sscs にインストールされます。

別のフォルダにインストールするには、「Browse」をクリックしてそのフォルダを選択し、「Next」をクリックします。

インストールが完了したら、エージェントは自動的に起動します。

▼ Microsoft Windows NT ホストでエージェントを停止または起動するには

エージェントを停止するには、「設定」→「コントロールパネル」→「サービス」を選択し、停止するエージェントを選択して「停止」をクリックします。

エージェントをサーバー上で起動するには、サーバーをリブートするか、SUNWscsd Startup、SUNWscsd Server および SUNWscsd Monitor の3つの Sun StorEdge Configuration Service サービスを、「設定」→「コントロールパネル」→「サービス」から起動します。

▼ Microsoft Windows 2000 および Microsoft Windows 2003 ホストでエージェントを停止または起動するには

1. Microsoft Windows 2000 ホストで、「スタート」→「プログラム」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」を選択します。

Microsoft Windows 2003 ホストで、「スタート」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」を選択します。

あるいは、「マイコンピュータ」を右クリックして、「管理」を選択することもできます。

2. 「サービスとアプリケーション」をクリックします。
3. 起動または停止するサービス (SUNWscsd Monitor、SUNWscsd Server、または SUNWscsd Startup) を右クリックします。

ユーザーとパスワード

以下のセクションではユーザーとパスワードの作成方法について説明します。

管理 (ユーザー) セキュリティレベルとガイドライン

管理機能によりアクセスログインとパスワードが要求され、管理者がほかのクライアントやホストに属するストレージリソースを許可なく再割り当てしたり削除したりすることが防がれます。

3つのセキュリティレベルに別々のパスワードを割り当ててください。これを行うには、プログラムで管理されるストレージデバイスを持つエージェントに3つのユーザーをセットアップします。

セキュリティレベルの名前は、次のとおりでなければなりません。

- **ssmon**

ソフトウェアの監視レベルを表します。

- **ssadmin**

ソフトウェアの管理レベルを表します。リビルド、パリティチェック、およびパリティチェックのスケジュールの機能へのアクセスと、監視機能を提供します。

- **ssconfig**

ソフトウェアの構成レベルを表します。インストール者に、構成機能およびプログラムのその他の関連機能への直接アクセスを提供します。

3つのセキュリティレベルにはこれらの名前が必要です。インストールの後、各セキュリティ名にパスワードを割り当てる必要があります。

ssmon、**ssadmin**、および **ssconfig** の名前は、プログラムのセキュリティレベルのみに対応するログイン名です。

Sun StorEdge Configuration Service は、ユーザーが **ssmon** パスワードを入力せずに監視機能を実行できるようにセットアップできます。これを行うには、コンソールでサーバーを「管理サーバー」リストに追加するときに、「自動発見」オプションを選択します。この3つのログインとパスワードは各サーバー上でローカルにセットアップできます。これらのアカウントにサーバーごとに異なるパスワードを設定することもできます。

管理するエージェントにこの3つのログイン名をセットアップしたあと、システム管理者は通常、タスクの完了に必要なセキュリティレベルに基づいてユーザーに適切なパスワードを割り当てることにより、プログラムへのユーザーアクセスを提供します。たとえば、特定のサーバーに対する管理特権を持つものは全員、ユーザー **ssadmin** 用に確立された同じパスワードが割り当てられます。

注 - 「管理サーバー」リストにサーバーを追加するには、『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』を参照してください。

複数サーバーに対するグローバルパスワード

大規模ネットワークを使用しているため個々のログインをセットアップしたくない場合で、複数のサーバーが同じパスワードを持つことが許可されているときは、この3つのログインを Microsoft Windows でのドメインサーバー上に確立することができます。これにより、この Microsoft Windows ドメイン内にあるほかのすべてのサーバーが、それぞれのパスワードを使って3つのログインにアクセスできるようになります。

▼ Microsoft Windows NT ユーザーを作成するには

1. NT User Manager プログラムを使ってユーザーを追加します。
2. 「原則」を選択して、「ユーザーの権利」を選択します。
3. 「高度なユーザー権利を表示」を選択します。
4. NT ユーザー管理者に、「オペレーティングシステムの一部として機能」の権限を与えます。
5. 「ユーザープロパティ」で、「ユーザーは次回ログオン時にパスワード変更が必要」を選択解除します。
6. 「ユーザープロパティ」で、「ユーザーはパスワードを変更できない」と「パスワードを無期限にする」を選択します。
7. 複数のサーバー設定を必要としないようにドメインサーバー上にユーザー名をセットアップする場合は、管理対象のサーバーが、Sun StorEdge Configuration Service ユーザーアカウントが確立されたドメインに属していることを確認してください。
詳細は、Microsoft Windows NT の説明書を参照してください。

▼ Microsoft Windows 2000 または Microsoft Windows 2003 ユーザーを作成するには

1. Microsoft Windows 2000 ホストで、「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」→「システムツール」→「ローカルユーザーとグループ」を選択します。
Microsoft Windows 2003 ホストで、「スタート」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」→「ローカルユーザーとグループ」を選択します。

2. 「ユーザー」フォルダを右クリックし、「新しいユーザー」を選択して3人のユーザー (ssmon、ssconfig、および ssadmin) を追加します。
3. 「ユーザー名」にユーザーの1人を追加します。必要であれば、「説明」に入力します。
4. パスワードを入力し、必要であれば、「ユーザーはパスワードを変更できない」と「パスワードを無期限にする」を選択します。

Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール

Sun StorEdge Configuration Service を Microsoft Windows コンソールから削除するには、Microsoft Windows の「アプリケーションの追加と削除」ユーティリティを使用してください。

▼ Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールするには

1. 「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」を選択します。
2. 「Sun StorEdge Configuration Service エージェント」を選択し、「追加と削除」を選択します。
プロンプトに対して適切に答えます。
3. 「Sun StorEdge Configuration Service コンソール」を選択し、「追加と削除」を選択します。
プロンプトに対して適切に答えます。

Linux ホストでの Sun StorEdge Configuration Service のインストール

この章では、Sun Linux または Red Hat Linux ホストに Sun StorEdge Configuration Service コンソールおよびエージェントをインストールする手順を説明します。この章でふれるトピックは以下のとおりです。

- 25 ページの「システム要件」
- 26 ページの「ソフトウェアのインストール」
- 30 ページの「ユーザーとパスワード」
- 32 ページの「Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール」

システム要件

このセクションでは、Linux ホストのシステム要件を説明します。

- Netscape Navigator Web ブラウザ - オンラインヘルプを表示するには Web ブラウザが必要です。4.0 以前のバージョンはサポートされません。
- TCP/IP 準拠のネットワークインタフェース - 各コンソールには TCP/IP 準拠のネットワークインタフェース (Ethernet、トークンリングネットワークカード、またはモデム付きのシリアルラインなど) が必要です。各エージェントには、TCP/IP 準拠のネットワークインタフェースおよびドライバセット (オペレーティングシステムに付属) が必要です。
- カラーモニター - コンソールは、解像度 1024 x 768 ピクセルで 256 色のモニターを使用すると最適な表示になります。
- OS、メモリ、およびディスク空き容量 - 表 4-1 に Linux OS のコンソールシステム要件を示します。表 4-2 には Linux OS のエージェントシステム要件を示します。

表 4-1 Linux OS のコンソールシステム要件

Linux の OS バージョン	メモリ	ディスク空き容量
Sun™ LX50 サーバーの Sun Linux 5.0 (SCSI のみ)	256 M バイト以上	40 M バイト以上
Red Hat Advanced Server 2.1	512 M バイトを推奨	100 M バイトを推奨

表 4-2 Linux OS のエージェントシステム要件

Linux の OS バージョン	メモリ	ディスク空き容量
Sun LX50 サーバーの Sun Linux 5.0 (SCSI のみ)	128 M バイト以上	20 M バイト以上
Red Hat Advanced Server 2.1	512 M バイトを推奨	100 M バイトを推奨

ソフトウェアのインストール

Sun StorEdge Configuration Service ソフトウェアは、以下のコンポーネントから構成されます。

- Sun StorEdge Configuration Service エージェント
- Sun StorEdge Configuration Service コンソール
- Sun StorEdge Diagnostic Reporter (オプションユーティリティ)
- コマンド行インタフェース (CLI)

Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストールの詳細は、[49 ページの「Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール」](#)を参照してください。CLI のインストールの詳細は、[61 ページの「コマンド行インタフェースのインストールとアクセス」](#)を参照してください。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をインストールする前に、使用しているアレイのリリースノートを読んでください。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をインストールし、コンソールを実行するには、スーパーユーザーである必要があります。

ソフトウェアのアップグレード - エージェントおよびコンソールのバージョン互換性

通信プロトコルがバージョンごとに変更されるため、アップグレード時にはエージェントおよびコンソールの両方をインストールする必要があります。異なるバージョンのエージェントおよびコンソールが共存している場合は、Sun StorEdge Configuration Service は以前構成されたアレイを検出することができません。

インストールパッケージ

インストールパッケージは、Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD にあり、以下のファイルが含まれています。

- SUNWscsd.rpm - Sun StorEdge Configuration Service エージェント
- SUNWscsu.rpm - Sun StorEdge Configuration Service コンソール

▼ エージェントおよびコンソールをインストールするには

Sun StorEdge Configuration Service を構成する各サーバーにエージェントをインストールしてください。コンソールは、ストレージシステムの維持管理に使用するコンピュータとワークステーションにインストールします。

コンソールはサーバーまたは任意のクライアントシステムにインストールできます。エージェントは、ストレージが接続されるサーバーにインストールします。

エージェント、コンソール、またはその両方をインストールするには、以下の手順を完了してください。プログラムを実行するには、少なくとも 1 つのエージェントと 1 つのコンソールをインストールする必要があります。

アップグレードする場合は、エージェントおよびコンソールの両方をインストールする必要があります。異なるバージョンのエージェントおよびコンソールが共存している場合は、Sun StorEdge Configuration Service は以前構成されたアレイを検出することができません。

注 – Sun StorEdge Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.2 です。

1. Sun StorEdge Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていない場合は、ただちにインストールします。

Java Runtime Environment ソフトウェアのバージョンをチェックするには、次のように入力します。

```
# java -version
```

2. ファイルシステムに CD がマウントされていない場合は、マウントします。

```
# cd mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

3. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# cd /mnt/cdrom/product/linux
```

4. パッケージを次のどれかの方法でインストールします。
 - エージェントだけをインストールする場合は、次のように入力します。

```
# rpm -ivh SUNWscsd.rpm
```

- コンソールだけをインストールする場合は、次のように入力します。

```
# rpm -ivh SUNWscsu.rpm
```

5. オンラインヘルプにアクセスするには、コンソールをインストールするシステムに Netscape Navigator をインストールします。

4.0 以前のバージョンはサポートされません。Netscape Navigator が見つからない場合、パスを指定するよう求められます。

- a. /opt/SUNWsscs/sscsconsole に移動し、次のように入力します。

```
./config_sscon
```

- b. Web ブラウザへの絶対パスを入力します。

注 – Web ブラウザのパス名はいつでも構成できますが、いずれかの時点で指定しないとオンラインヘルプにアクセスできません。

エージェントのインストールが完了したら、コンポーネントのインストールが成功し、起動したことを示す次のメッセージが表示されます。

```
# rpm -ivh SUNWscsd.rpm Preparing...
##### [100%] 1:SUNWscsd
##### [100%] add user ssmon add
user ssadmin add user ssconfig Configuring and starting Sun StorEdge
(tm) Configuration Service daemons[ OK ]
Starting Sun StorEdge (tm) Configuration Service agent daemon[ OK ]
Starting Sun StorEdge (tm) Configuration Service agent monitor daemon[
OK ]
```

コンソールのインストールが完了したら、コンポーネントのインストールが成功し、起動したことを示す次のメッセージが表示されます。

```
# rpm -ivh SUNWscsu.rpm Preparing...
##### [100%] 1:SUNWscsu
##### [100%]
Installation completed successfully!
```

エージェントおよびコンソールは /opt/SUNWsscs/sscsconsole にインストールされます。

▼ エージェントを停止または起動するには

エージェントは、/etc/init.d/ssagent にある実行コマンドスクリプトを使って、手動で停止および起動できます。

1. エージェントを停止するには、次のように入力します。

```
# /etc/init.d/ssagent stop
```

2. エージェントを起動するには、次のように入力します。

```
# /etc/init.d/ssagent start
```

または

```
# service ssagent start
```

注 - エージェントを起動するには、スーパーユーザーである必要があります。

最初に stop を使用せずに、start を使った場合、スクリプトは、停止されていた任意のエージェントを再起動します。すべてのエージェントが (たとえば stop オプションで) 停止されていた場合、スクリプトは実行環境を再設定してからエージェントを再起動します。

3. エージェントが実行されているか確認するには、次のように入力します。

```
# ps -e | grep ss
```

または

```
# service ssagent status
```

ssmon と ssserver の両方が出力に表示されます。SNMP トラップ生成を有効にしてあった場合は、その名前 sstrapd も表示されます。

ユーザーとパスワード

以下のセクションではユーザーとパスワードの作成方法について説明します。

管理 (ユーザー) セキュリティレベルとガイドライン

Linux ホストでプログラムを実行する場合、管理セキュリティレベルはインストールプロセスで自動的に作成されます。必要な操作は、許可レベルに応じてパスワードを設定し、ユーザーを割り当てることです。

管理機能によりアクセスログインとパスワードが要求され、管理者がほかのクライアントやホストに属するストレージリソースを許可なく再割り当てしたり削除したりすることが防がれます。

プログラムの 3 つのセキュリティレベルに個別のパスワードを割り当ててください。これを行うには、プログラムで管理されるストレージデバイスを持つエージェントに 3 つのユーザーをセットアップします。この 3 つのユーザーは、エージェントのインストール時に自動的に追加されます。

セキュリティレベルの名前は、次のとおりでなければなりません。

- ssmon

ソフトウェアの監視レベルを表します。

- ssadmin

ソフトウェアの管理レベルを表します。リビルド、パリティチェック、およびパリティチェックのスケジュールの機能へのアクセスと、監視機能を提供します。

- ssconfig

ソフトウェアの構成レベルを表します。インストール者に、構成機能およびプログラムのその他の関連機能への直接アクセスを提供します。

3 つのセキュリティレベルにはこれらの名前が必要です。インストールの後、各セキュリティ名にパスワードを割り当てる必要があります。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールすると、ユーザーパスワードは削除されます。以前の構成が存在する場合、`ssmon`、`ssadmin` および `ssconfig` の各パスワードを再度入力する必要があります。

`ssmon`、`ssadmin`、および `ssconfig` の名前は、プログラムのセキュリティレベルのみに対応するログイン名です。UNIX 動作環境では、ユーザー ID が対話的なログインに使用されることを防ぐために、これらのアカウントのデフォルトシェルは `/bin/false` に割り当てられます。

Sun StorEdge Configuration Service は、ユーザーが `ssmon` パスワードを入力せずに監視機能を実行できるようにセットアップできます。これを行うには、コンソールでサーバーを「管理サーバー」リストに追加するときに、「自動発見」オプションを選択します。この3つのログインとパスワードは各サーバー上でローカルにセットアップできます。必要であれば、これらのアカウントにサーバーごとに異なるパスワードを設定することもできます。

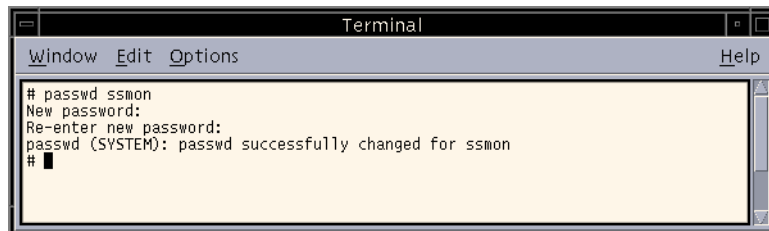
管理するエージェントにこの3つのログイン名をセットアップしたあと、システム管理者は通常、タスクの完了に必要なセキュリティレベルに基づいてユーザーに適切なパスワードを割り当てることにより、プログラムへのユーザーアクセスを提供します。たとえば、特定のサーバーに対する管理特権を持つものは全員、ユーザー `ssadmin` 用に確立された同じパスワードが割り当てられます。

注 – 「管理サーバー」リストにサーバーを追加するには、『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』を参照してください。

▼ パスワードと許可を作成するには

各新規ユーザーにパスワードを作成するには、次のように入力します。

```
# passwd user-name
```



```
Terminal
Window Edit Options Help
# passwd ssmon
New password:
Re-enter new password:
passwd (SYSTEM): passwd successfully changed for ssmon
# █
```

管理者はグループ許可を変更することもできます。グループ許可は、インストール時の /opt/SUNWsscs/sscsconsole ディレクトリにある svrlist.dat ファイルで定義されています。

コンソールは Java テクノロジベースのユーティリティであるため、Sun StorEdge Configuration Service が作成するファイルの許可や所有権を制御する機能は提供しません。svrlist.dat ファイルは、各種の ASCII テキストプロセッサで容易に読み取ることができます。このファイルには、ユーザー ssmon の暗号化されたパスワードが含まれており、解読可能です。

注 – 監視するエージェントをすべて追加したあとで、svrlist.dat の許可とグループ所有権を変更しないでください。

Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール

コンソールまたはエージェントをアップグレードする場合は、以前のバージョンの Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールします。一部のファイルは削除されませんが、その理由はこれらがインストールの後に作成され、アップグレード環境でも有効だからです。

▼ Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールするには

rpm -e コマンドの後に、アンインストールするパッケージ SUNWscsd (エージェント) または SUNWscsu (コンソール) を指定します。

```
# rpm -e SUNWscsd
# rpm -e SUNWscsu
```


HP-UX ホストでの Sun StorEdge Configuration Service のインストール

この章では、HP-UX ホストに Sun StorEdge Configuration Service コンソールおよびエージェントをインストールする手順を説明します。この章でふれるトピックは以下のとおりです。

- 33 ページの「システム要件」
- 34 ページの「ソフトウェアのインストール」
- 38 ページの「ユーザーとパスワード」
- 40 ページの「Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール」

システム要件

このセクションでは、HP-UX ホストのシステム要件を説明します。

- Netscape Navigator Web ブラウザ - オンラインヘルプを表示するには Web ブラウザが必要です。4.6 以前のバージョンはサポートされません。
- TCP/IP 準拠のネットワークインタフェース - 各コンソールには TCP/IP 準拠のネットワークインタフェース (Ethernet、トークンリングネットワークカード、またはモデム付きのシリアルラインなど) が必要です。各エージェントには、TCP/IP 準拠のネットワークカードインタフェースおよびドライバセット (オペレーティングシステムに付属) が必要です。
- カラーモニター - コンソールは、解像度 1024 x 768 ピクセルで 256 色のモニターを使用すると最適な表示になります。
- OS、メモリ、およびディスク空き容量 - 表 5-1 に HP-UX OS のコンソールシステム要件を示します。表 5-2 には HP-UX OS のエージェントシステム要件を示します。

表 5-1 HP-UX OS のコンソールシステム要件

HP-UX の OS バージョン	メモリ	ディスク空き容量
11.0 および 11i	256 M バイト以上 512 M バイトを推奨	40 M バイト以上 100 M バイトを推奨

表 5-2 HP-UX OS のエージェントシステム要件

HP-UX の OS バージョン	メモリ	ディスク空き容量
11.0 および 11i	128 M バイト以上 512 M バイトを推奨	10 M バイト以上 100 M バイトを推奨

ソフトウェアのインストール

Sun StorEdge Configuration Service ソフトウェアは、以下のコンポーネントから構成されます。

- Sun StorEdge Configuration Service エージェント
- Sun StorEdge Configuration Service コンソール
- Sun StorEdge Diagnostic Reporter (オプションユーティリティ)
- コマンド行インタフェース (CLI)

Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストールの詳細は、[49 ページの「Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール」](#)を参照してください。CLI のインストールの詳細は、[61 ページの「コマンド行インタフェースのインストールとアクセス」](#)を参照してください。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をインストールする前に、使用しているアレイのリリースノートを読んでください。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をインストールし、コンソールを実行するには、スーパーユーザーである必要があります。

ソフトウェアのアップグレード - エージェントおよびコンソールのバージョン互換性

通信プロトコルがバージョンごとに変更されるため、アップグレード時にはエージェントおよびコンソールの両方をインストールする必要があります。異なるバージョンのエージェントおよびコンソールが共存している場合は、Sun StorEdge Configuration Service は以前構成されたアレイを検出することができません。

インストールパッケージ

インストールパッケージは、Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD にあり、以下のファイルが含まれています。

- SUNWscsd.depot - Sun StorEdge Configuration Service エージェント
- SUNWscsu.depot - Sun StorEdge Configuration Service コンソール

▼ エージェントおよびコンソールをインストールするには

Sun StorEdge Configuration Service を構成する各サーバーにエージェントをインストールしてください。コンソールは、ストレージシステムの維持管理に使用するコンピュータとワークステーションにインストールします。

コンソールはサーバーまたは任意のクライアントシステムにインストールできます。エージェントは、ストレージが接続されるサーバーにインストールします。

エージェント、コンソール、またはその両方をインストールするには、以下の手順を完了してください。プログラムを実行するには、少なくとも 1 つのエージェントと 1 つのコンソールをインストールする必要があります。

アップグレードする場合は、エージェントおよびコンソールの両方をインストールする必要があります。異なるバージョンのエージェントおよびコンソールが共存している場合は、Sun StorEdge Configuration Service は以前構成されたアレイを検出することができません。

注 - リモートのログインホスト上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.2 です。リモートのログインホスト環境を使用しない場合は、Sun StorEdge Configuration Service をインストールする HP-UX マシンにインストールする必要があります。

1. Sun StorEdge Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていない場合は、ただちにインストールします。

Java Runtime Environment ソフトウェアのバージョンをチェックするには、次のように入力します。

```
# java -version
```

2. CD 用のマウント ポイントが作成されていることを確認します。
3. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入します。

4. CD のデバイスエントリを決めます。

```
# ioscan -fnC disk
```

デバイスエントリを、たとえば次のように示します。

```
/dev/dsk/c2t5d0
```

5. ファイルシステムに CD がマウントされていない場合は、マウントします。

```
# mount -r device entry mounting point
```

6. エージェントをインストールするには、次のように入力します。

```
# swinstall -s /cdrom/product/hpux/SUNWscsd.depot
```

7. コンソールをインストールするには、次のように入力します。

```
# swinstall -s /cdrom/product/hpux/SUNWscsu.depot
```

エージェントは /opt/SUNWsscscs/ssagent にインストールされます。コンソールは /opt/SUNWsscscs/sscscsconsole にインストールされます。

▼ コンソールを表示するには

コンソールを起動するには、表示を設定してコンソールを表示します。

1. リモートログインホストの名前を指定し、Return キーを押します。

リモートのログインホスト環境を使用しない場合は、HP-UX マシンの名前を指定します。

```
# xterm -display リモートログインホストのIP アドレス:0.0 -title リモートログインホストの名前またはHP-UX マシン名
```

ターミナルウィンドウが表示され、前の手順で指定されたリモートログインホストまたは HP-UX マシンの名前が確認されます。『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』で説明されているとおり、これは、Sun StorEdge Configuration Service を起動するターミナルウィンドウです。

2. デフォルトの Web ブラウザを指定します。

オンラインヘルプにアクセスするには、コンソールをインストールするシステムに Netscape Navigator をインストールします。Netscape Navigator は通常、`/opt/netscape/netscape` または `/usr/bin/netscape` のどちらかにインストールされます。

注 – Web ブラウザのパス名はいつでも構成できますが、いずれかの時点で指定しないとオンラインヘルプにアクセスできません。

▼ エージェントを停止または起動するには

エージェントは、手動で停止および起動することができます。

1. エージェントを停止するには、次のように入力します。

```
# /sbin/init.d/ssagent stop
```

2. エージェントを起動するには、次のように入力します。

```
# /sbin/init.d/ssagent start
```

注 – エージェントを起動するには、スーパーユーザーである必要があります。

最初に `stop` を使用せずに、`start` を使った場合、スクリプトは、停止されていた任意のエージェントを再起動します。すべてのエージェントが (たとえば `stop` オプションで) 停止されていた場合、スクリプトは実行環境を再設定してからエージェントを再起動します。

3. エージェントが実行されているか確認するには、次のように入力します。

```
# ps -e | grep ss
```

`ssmon` と `ssserver` の両方が出力に表示されます。SNMP トラップ生成を有効にしてあった場合は、その名前 `sstrapd` も表示されます。

ユーザーとパスワード

以下のセクションではユーザーとパスワードの作成方法について説明します。

管理 (ユーザー) セキュリティレベルとガイドライン

HP-UX ホストでプログラムを実行する場合、管理セキュリティレベルはインストールプロセスで自動的に作成されます。必要な操作は、許可レベルに応じてパスワードを設定し、ユーザーを割り当てることです。

管理機能によりアクセスログインとパスワードが要求され、管理者がほかのクライアントやホストに属するストレージリソースを許可なく再割り当てしたり削除したりすることが防がれます。

プログラムの3つのセキュリティレベルに個別のパスワードを割り当ててください。これを行うには、プログラムで管理されるストレージデバイスを持つエージェントに3つのユーザーをセットアップします。この3つのユーザーは、エージェントのインストール時に自動的に追加されます。

セキュリティレベルの名前は、次のとおりでなければなりません。

- **ssmon**

ソフトウェアの監視レベルを表します。

- **ssadmin**

ソフトウェアの管理レベルを表します。リビルド、パリティチェック、およびパリティチェックのスケジュールの機能へのアクセスと、監視機能を提供します。

- **ssconfig**

ソフトウェアの構成レベルを表します。インストーラーに、構成機能およびプログラムのその他の関連機能への直接アクセスを提供します。

3つのセキュリティレベルにはこれらの名前が必要です。インストールの後、各セキュリティ名にパスワードを割り当てる必要があります。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールすると、ユーザーパスワードは削除されます。以前の構成が存在する場合、ssmon、ssadmin および ssconfig の各パスワードを再度入力する必要があります。

ssmon、ssadmin、および ssconfig の名前は、プログラムのセキュリティレベルのみに対応するログイン名です。UNIX 動作環境では、ユーザー ID が対話的なログインに使用されることを防ぐために、これらのアカウントのデフォルトシェルは /bin/false に割り当てられます。

Sun StorEdge Configuration Service は、ユーザーが `ssmon` パスワードを入力せずに監視機能を実行できるようにセットアップできます。これを行うには、コンソールでサーバーを「管理サーバー」リストに追加するときに、「自動発見」オプションを選択します。この3つのログインとパスワードは各サーバー上でローカルにセットアップできます。必要であれば、これらのアカウントにサーバーごとに異なるパスワードを設定することもできます。

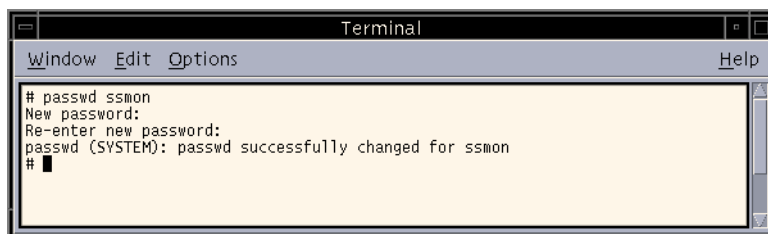
管理するエージェントにこの3つのログイン名をセットアップしたあと、システム管理者は通常、タスクの完了に必要なセキュリティレベルに基づいてユーザーに適切なパスワードを割り当てることにより、プログラムへのユーザーアクセスを提供します。たとえば、特定のサーバーに対する管理特権を持つものは全員、ユーザー `ssadmin` 用に確立された同じパスワードが割り当てられます。

注 - 「管理サーバー」リストにサーバーを追加するには、『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』を参照してください。

▼ パスワードと許可を作成するには

各新規ユーザーにパスワードを作成するには、次のように入力します。

```
# passwd user-name
```



管理者はグループ許可を変更することもできます。グループ許可は、インストール時の `/opt/SUNWsscs/sscsconsole` ディレクトリにある `svrlist.dat` ファイルで定義されています。

コンソールは Java テクノロジベースのユーティリティであるため、Sun StorEdge Configuration Service が作成するファイルの許可や所有権を制御する機能は提供しません。`svrlist.dat` ファイルは、各種の ASCII テキストプロセッサで容易に読み取ることができます。このファイルには、ユーザー `ssmon` の暗号化されたパスワードが含まれており、解読可能です。

注 – 監視するエージェントをすべて追加したあとで、svrlist.dat の許可とグループ所有権を変更しないでください。

Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール

コンソールまたはエージェントをアップグレードする場合は、以前のバージョンの Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールします。一部のファイルは削除されませんが、その理由はこれらがインストールの後に作成され、アップグレード環境でも有効だからです。

▼ Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールするには

swremove コマンドの後に、アンインストールするパッケージ SUNWscsd (エージェント) または SUNWscsu (コンソール) を指定します。

```
# swremove SUNWscsd
# swremove SUNWscsu
```


IBM AIX ホストでの Sun StorEdge Configuration Service のインストール

この章では、IBM AIX ホストに Sun StorEdge Configuration Service コンソールおよびエージェントをインストールする手順を説明します。この章でふれるトピックは以下のとおりです。

- [41 ページの「システム要件」](#)
- [42 ページの「ソフトウェアのインストール」](#)
- [45 ページの「ユーザーとパスワード」](#)
- [47 ページの「Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール」](#)

システム要件

このセクションでは、IBM AIX ホストのシステム要件を説明します。

- Netscape Navigator Web ブラウザ - オンラインヘルプを表示するには Web ブラウザが必要です。4.08 以前のバージョンはサポートされません。
- TCP/IP 準拠のネットワークインタフェース - 各コンソールには TCP/IP 準拠のネットワークインタフェース (Ethernet、トークンリングネットワークカード、またはモデム付きのシリアルラインなど) が必要です。各エージェントには、TCP/IP 準拠のネットワークインタフェースおよびドライバセット (オペレーティングシステムに付属) が必要です。
- カラーモニター - コンソールは、解像度 1024 x 768 ピクセルで 256 色のモニターを使用すると最適な表示になります。
- OS、メモリ、およびディスク空き容量 - [表 6-1](#) に IBM AIX OS のコンソールシステム要件を示します。[表 6-2](#) には IBM AIX OS のエージェントシステム要件を示します。

表 6-1 IBM AIX OS のコンソール システム要件

IBM AIX の OS バージョン	メモリ	ディスク空き容量
4.3.3 および 5.1L	256 M バイト以上 512 M バイトを推奨	40 M バイト以上 100 M バイトを推奨

表 6-2 IBM AIX OS のエージェント システム要件

IBM AIX の OS バージョン	メモリ	ディスク空き容量
4.3.3 および 5.1L	128 M バイト以上 512 M バイトを推奨	20 M バイト以上 100 M バイトを推奨

ソフトウェアのインストール

Sun StorEdge Configuration Service ソフトウェアは、以下のコンポーネントから構成されます。

- Sun StorEdge Configuration Service エージェント
- Sun StorEdge Configuration Service コンソール
- Sun StorEdge Diagnostic Reporter (オプションユーティリティ)
- コマンド行インタフェース (CLI)

Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストールの詳細は、[49 ページの「Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール」](#)を参照してください。CLI のインストールの詳細は、[61 ページの「コマンド行インタフェースのインストールとアクセス」](#)を参照してください。

インストールパッケージ

インストールパッケージは、Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD にあり、以下のファイルが含まれています。

- SUNWscsd.bff - Sun StorEdge Configuration Service エージェント
- SUNWscsu.bff - Sun StorEdge Configuration Service コンソール

注 – Sun StorEdge Configuration Service をインストールする前に、使用しているアレイのリリースノートを読んでください。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をインストールし、コンソールを実行するには、スーパーユーザーである必要があります。

ソフトウェアのアップグレード - エージェントおよびコンソールのバージョン互換性

通信プロトコルがバージョンごとに変更されるため、アップグレード時にはエージェントおよびコンソールの両方をインストールする必要があります。異なるバージョンのエージェントおよびコンソールが共存している場合は、Sun StorEdge Configuration Service は以前構成されたアレイを検出することができません。

▼ エージェントおよびコンソールをインストールするには

Sun StorEdge Configuration Service を構成する各サーバーにエージェントをインストールしてください。コンソールは、ストレージシステムの維持管理に使用するコンピュータとワークステーションにインストールします。

コンソールはサーバーまたは任意のクライアントシステムにインストールできます。エージェントは、ストレージが接続されるサーバーにインストールします。

エージェント、コンソール、またはその両方をインストールするには、以下の手順を完了してください。プログラムを実行するには、少なくとも 1 つのエージェントと 1 つのコンソールをインストールする必要があります。

アップグレードする場合は、エージェントおよびコンソールの両方をインストールする必要があります。異なるバージョンのエージェントおよびコンソールが共存している場合は、Sun StorEdge Configuration Service は以前構成されたアレイを検出することができません。

注 - Sun StorEdge Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.3 です。

1. Sun StorEdge Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていない場合は、ただちにインストールします。

Java Runtime Environment ソフトウェアのバージョンをチェックするには、次のように入力します。

```
# java -version
```

2. Sun StorEdge Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# mount -v cdrfs -o ro CD-ROM-drive
```

3. エージェントをインストールするには、次のように入力します。

```
# installp -a -d /cdrom/product/aix/SUNWscsd.bff
```

4. コンソールをインストールするには、次のように入力します。

```
# installp -a -d /cdrom/product/aix/SUNWscsu.bff
```

エージェントまたはコンソールのインストールが成功したら、インストールサマリーの結果列に「SUCCESS」が表示されます。

5. デフォルトの Web ブラウザへのパスを指定します。

Sun StorEdge Configuration Service オンラインヘルプにアクセスするには、コンソールをインストールするシステムに Netscape Navigator をインストールする必要があります。4.08 以前のバージョンはサポートされません。Web ブラウザが検出されない場合、Web ブラウザへのパスを指定するよう求められます。

Netscape Navigator は通常、/usr/bin/netscape にインストールされます。

注 - Web ブラウザのパス名はいつでも構成できますが、いずれかの時点で指定しないとオンラインヘルプにアクセスできません。

エージェントは /usr/SUNWsscs/ssagent にインストールされます。コンソールは /usr/SUNWsscs/sscsconsole にインストールされます。

▼ エージェントを停止または起動するには

エージェントは、手動で停止または起動することができます。

1. エージェントを停止するには、次のように入力します。

```
# /etc/ssagent.rc stop
```

2. エージェントを起動するには、次のように入力します。

```
# /etc/ssagent.rc start
```

注 - エージェントを起動するには、スーパーユーザーである必要があります。

最初に `stop` を使用せずに、`start` を使った場合、スクリプトは停止されていた任意のエージェントを再起動します。すべてのエージェントが (たとえば `stop` オプションで) 停止されていた場合、スクリプトは実行環境を再設定してからデーモンを再起動します。

3. エージェントが実行されているか確認するには、次のように入力します。

```
# ps -e | grep ss
```

`ssmon` と `ssserver` の両方が出力に表示されます。SNMP トラップ生成を有効にしてあった場合は、その名前 `ssstrapd` も表示されます。

ユーザーとパスワード

以下のセクションではユーザーとパスワードの作成方法について説明します。

管理 (ユーザー) セキュリティレベルとガイドライン

IBM AIX ホストでプログラムを実行する場合、管理セキュリティレベルはインストールプロセスで自動的に作成されます。必要な操作は、許可レベルに応じてパスワードを設定し、ユーザーを割り当てることです。

管理機能によりアクセスログインとパスワードが要求され、管理者がほかのクライアントやホストに属するストレージリソースを許可なく再割り当てしたり削除したりすることが防がれます。

プログラムの 3 つのセキュリティレベルに個別のパスワードを割り当ててください。これを行うには、プログラムで管理されるストレージデバイスを持つエージェントに 3 つのユーザーをセットアップします。この 3 つのユーザーは、エージェントのインストール時に自動的に追加されます。

セキュリティレベルの名前は、次のとおりでなければなりません。

- `ssmon`

ソフトウェアの監視レベルを表します。

- `ssadmin`

ソフトウェアの管理レベルを表します。リビルド、パリティチェック、およびパリティチェックのスケジュールの機能へのアクセスと、監視機能を提供します。

- `ssconfig`

ソフトウェアの構成レベルを表します。インストーラーに、構成機能およびプログラムのその他の関連機能への直接アクセスを提供します。

3つのセキュリティレベルにはこれらの名前が必要です。インストールの後、各セキュリティ名にパスワードを割り当てる必要があります。

注 – Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールすると、ユーザーパスワードは削除されます。以前の構成が存在する場合、`ssmon`、`ssadmin` および `ssconfig` の各パスワードを再度入力する必要があります。

`ssmon`、`ssadmin`、および `ssconfig` の名前は、プログラムのセキュリティレベルのみに対応するログイン名です。UNIX 動作環境では、ユーザー ID が対話的なログインに使用されることを防ぐために、これらのアカウントのデフォルトシェルは `/bin/false` に割り当てられます。

Sun StorEdge Configuration Service は、ユーザーが `ssmon` パスワードを入力せずに監視機能を実行できるようにセットアップできます。これを行うには、コンソールでサーバーを「管理サーバー」リストに追加するときに、「自動発見」オプションを選択します。この3つのログインとパスワードは各サーバー上でローカルにセットアップできます。必要であれば、これらのアカウントにサーバーごとに異なるパスワードを設定することもできます。

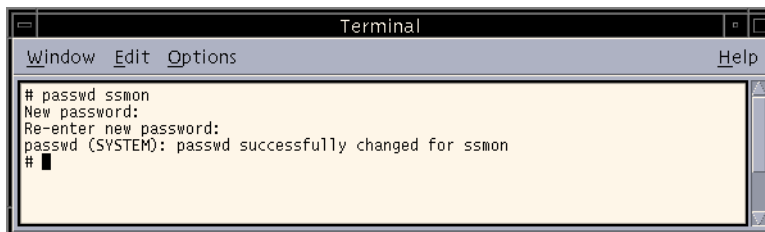
管理するエージェントにこの3つのログイン名をセットアップしたあと、システム管理者は通常、タスクの完了に必要なセキュリティレベルに基づいてユーザーに適切なパスワードを割り当てることにより、プログラムへのユーザーアクセスを提供します。たとえば、特定のサーバーに対する管理特権を持つものは全員、ユーザー `ssadmin` 用に確立された同じパスワードが割り当てられます。

注 – 「管理サーバー」リストにサーバーを追加するには、『Sun StorEdge 3000 Family Configuration Service ユーザーズガイド』を参照してください。

▼ パスワードと許可を作成するには

各新規ユーザーにパスワードを作成するには、次のように入力します。

```
# passwd user-name
```



管理者はグループ許可を変更することもできます。グループ許可は、インストール時の /usr/SUNWsscs/sscsconsole ディレクトリにある svrlist.dat ファイルで定義されています。

コンソールは Java テクノロジベースのユーティリティであるため、Sun StorEdge Configuration Service が作成するファイルの許可や所有権を制御する機能は提供しません。svrlist.dat ファイルは、各種の ASCII テキストプロセッサで容易に読み取ることができます。このファイルには、ユーザー ssmon の暗号化されたパスワードが含まれており、解読可能です。

注 – 監視するエージェントをすべて追加したあとで、svrlist.dat の許可とグループ所有権を変更しないでください。

Sun StorEdge Configuration Service のアンインストール

コンソールまたはエージェントをアップグレードする場合は、以前のバージョンの Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールします。一部のファイルは削除されませんが、その理由はこれらがインストールの後に作成され、アップグレード環境でも有効だからです。

▼ Sun StorEdge Configuration Service をアンインストールするには

installp -u コマンドの後に、アンインストールするパッケージ SUNWscsd (エージェント) または SUNWscsu (コンソール) を指定します。

```
# installp -u SUNWscsd
# installp -u SUNWscsu
```


Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール

この章では、Solaris、Linux、HP-UX、IBM AIX、Microsoft Windows NT、Microsoft Windows 2000、および Microsoft Windows 2003 ホストに Sun StorEdge Diagnostic Reporter をインストールする手順を説明します。この章でふれるトピックは以下のとおりです。

- 50 ページの「システム要件」
- 50 ページの「ソフトウェアのインストール」
- 57 ページの「Sun StorEdge Diagnostic Reporter の手動による停止および起動」
- 59 ページの「Sun StorEdge Diagnostic Reporter のアンインストール」

システム要件

表 7-1 に各サポート対象プラットフォームのシステム要件を示します。

表 7-1 Sun StorEdge Diagnostic Reporter のシステム要件

OS バージョン	メモリ	ディスク空き容量
Solaris2.6 SPARC プラットフォームの Solaris 8 および Solaris 9 Solaris 9 x86 Platform Edition (9 08/03)	256 M バイト以上 512 M バイトを推奨	40 M バイト以上 100 M バイトを推奨
Microsoft Windows NT 4.0 Microsoft Windows 2000 Microsoft Windows 2003	64 M バイト以上 512 M バイトを推奨	40 M バイト以上 400 M バイトを推奨
Sun™ LX50 サーバーの Sun Linux 5.0 (SCSI のみ) Red Hat Advanced Server 2.1	256 M バイト以上 512 M バイトを推奨	40 M バイト以上 100 M バイトを推奨
HP-UX 11.0 および 11i	256 M バイト以上 512 M バイトを推奨	40 M バイト以上 100 M バイトを推奨
IBM AIX 4.3.3 および 5.1L	256 M バイト以上 512 M バイトを推奨	40 M バイト以上 100 M バイトを推奨

ソフトウェアのインストール

このセクションでは、インストールパッケージの内容を紹介し、Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール手順について説明します。

注 – Sun StorEdge Diagnostic Reporter をインストールする前に、使用しているアレイのリリースノートを読んでください。

注 – Sun StorEdge Diagnostic Reporter をインストールするには、スーパーユーザーである必要があります。

インストールパッケージ

インストールパッケージは、Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD に収録されています。表 7-2 は、各 OS に必要なファイルを示しています。Solaris OS の Sun StorEdge Diagnostic Reporter は、フランス語、日本語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語の言語サポートを提供します。表 7-2 は、各言語に必要なファイルを示しています。

表 7-2 Sun StorEdge Diagnostic Reporter インストールパッケージ

	Solaris OS	Microsoft Windows OS	Linux OS	HP-UX OS	IBM AIX OS
エージェント	SUNWscsa	setup.exe	SUNWscsa.rpm	SUNWscsa.depot	SUNWscsa.bff
Config Tool (UI)	SUNWscui		SUNWscui.rpm	SUNWscui.depot	SUNWscui.bff

Solaris ホストの言語サポート

表 7-2 に示す英語専用インストールパッケージに加えて、Solaris ホストにフランス語、日本語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語の言語サポートが提供されます。表 7-3 は、これらの言語に必要なインストールパッケージを示しています。

注 – これらの言語で使用するには、Sun StorEdge エージェントおよび Config Tool の英語版インストールパッケージが必要です。

表 7-3 Solaris OS 言語サポートに必要な Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストールパッケージ

	英語	フランス語	日本語	簡体字 中国語	繁体字 中国語	韓国語
エージェント	SUNWscsa	SUNWscsa SUNWfscs	SUNWscsa SUNWjscs	SUNWscsa SUNWcscs	SUNWscsa SUNWtscs	SUNWscsa SUNWkscs
Config Tool (UI)	SUNWscui	SUNWscui SUNWfscui	SUNWscui SUNWjscui	SUNWscui SUNWcscui	SUNWscui SUNWtscui	SUNWscui SUNWkscui

▼ Solaris ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をインストールするには

英語版のパッケージのみをインストールする場合は、英語版の指示にだけ従ってください。言語サポートを追加する場合は、英語版のプログラムを最初にインストールします。

注 – Sun StorEdge Diagnostic Reporter エージェントおよび Config Tool をインストールする前に、Sun StorEdge Configuration Service エージェントをインストールする必要があります。

注 – Sun StorEdge Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。Solaris 2.6 ホストの Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.3.1 です。Solaris 8 または 9 ホストの Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.2 です。

1. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/product/solaris
```

2. エージェント (英語版) をインストールする場合は、次のように入力します。

```
# pkgadd -d SUNWscsa
```

言語サポートを追加する場合は、次のように入力します。

```
# pkgadd -d SUNW $x$ scs
```

ここで x は、インストールする言語に応じて f、j、c、t または k のどれかです。このパッケージ名については、表 7-3、51 ページの「Solaris OS 言語サポートに必要な Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストールパッケージ」を参照してください。

3. Config Tool (UI) (英語版) をインストールするには、次のように入力します。

```
# pkgadd -d SUNWscui
```

フランス語、日本語、中国語 (簡体字) の言語サポートを追加する場合は、次のように入力します。

```
# pkgadd -d SUNW $x$ scui
```

ここで x は、インストールする言語に応じて f、j、c、t または k のどれかです。パッケージ名については、51 ページの「Solaris OS 言語サポートに必要な Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストールパッケージ」を参照してください。

4. 標準インストールプロンプトのそれぞれに対して、適切な応答を入力します。
インストールプロンプトは、インストールするパッケージの選択と、(スーパーユーザー特権での) スクリプトの処理方法に関する標準の `pkgadd -d` プロンプトです。
5. インストール手順が完了したら、再起動してドライバとサーバードーモンを起動します。
エージェントは `/opt/SUNWsscs/ssdiagreporterd` にインストールされます。Config Tool は `/opt/SUNWsscs/ssdiagreporterui` にインストールされます。

▼ Microsoft Windows ホストで Diagnostic Reporter をインストールするには

注 – Sun StorEdge Diagnostic Reporter エージェントおよび Config Tool をインストールする前に、Sun StorEdge Configuration Service エージェントをインストールする必要があります。

注 – Sun StorEdge Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.2 です。

1. ソフトウェアインストールユーティリティ機能が最適に動作するように、動作中のすべてのアプリケーションを終了します。
2. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、`\product\windows` にディレクトリ変更します。
3. `setup.exe` をダブルクリックして、Sun StorEdge Diag Reporter を選択します。
4. 「Choose Destination Location」ウィンドウで、デフォルトフォルダ `C:\Program Files\Sun\ssdgrpt` をインストールし、「Next」をクリックします。
別のフォルダにインストールするには、「Browse」をクリックしてそのフォルダを選択し、「Next」をクリックします。

5. 次のウィンドウが表示されたら、「Full Installation」をクリックして「Next」をクリックします。
 - 「Full Installation」 - 3つのソフトウェアコンポーネント (Service、Config Tool、Mail Receiver Tool) をインストールします。
 - 「Service Installation」 - バックグラウンドのサービスソフトウェアだけをインストールします。サービス機能は Config Tool からリモートで設定できます。
 - 「UI Installation」 - Config Tool と Mail Receiver Tool だけをインストールします (Service は除く)。

注 - 管理者特権を持っていない場合や、Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていない場合は、Sun StorEdge Diagnostic Reporter Service が実行されていないか異常終了中であるというエラーメッセージが表示され、インストールを完了することはできません。

6. コンポーネントがすべてインストールされたら、「Finish」をクリックしてインストールを完了します。

▼ Linux ホストで Diagnostic Reporter をインストールするには

注 - Sun StorEdge Diagnostic Reporter エージェントおよび Config Tool をインストールする前に、Sun StorEdge Configuration Service エージェントをインストールする必要があります。

注 - Sun StorEdge Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.2 です。

1. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# cd /cdrom/cdrom0/product/linux
```

2. エージェントをインストールするには、次のように入力します。

```
# rpm -ivh SUNWscsa.rpm
```

3. Config Tool (UI) をインストールするには、次のように入力します。

```
# rpm -ivh SUNWscui.rpm
```

4. インストール手順を完了すると、エージェントは自動的に起動します。
エージェントは /opt/SUNWsscs/ssdiagreporterd にインストールされます。Config Tool は /opt/SUNWsscs/ssdiagreporterui にインストールされます。

▼ HP-UX ホストで Diagnostic Reporter をインストールするには

注 – Sun StorEdge Diagnostic Reporter エージェントおよび Config Tool をインストールする前に、Sun StorEdge Configuration Service エージェントをインストールする必要があります。

注 – リモートのログインホスト上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。Sun StorEdge Diagnostic Reporter と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.2 です。リモートのログインホスト環境を使用しない場合、Sun StorEdge Diagnostic Reporter をインストールする HP-UX マシンにインストールする必要があります。

1. Sun StorEdge Configuration Service のインストール先のリモートログインホスト、コンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていない場合は、ただちにインストールします。
2. CD 用のマウントポイントが作成されていることを確認します。
3. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入します。
4. CD のデバイスエントリを決めます。

```
# ioscan -fnC disk
```

デバイスエントリを、たとえば次のように示します。

```
/dev/dsk/c2t5d0
```

5. ファイルシステムに CD がマウントされていない場合は、マウントします。

```
# mount -r device-entry mounting-point
```

6. エージェントをインストールするには、次のように入力します。

```
# swinstall -s /cdrom/product/hpux/SUNWscsa.depot
```

7. Config Tool (UI) をインストールするには、次のように入力します。

```
# swinstall -s /cdrom/product/hpux/SUNWscui.depot
```

エージェントは /opt/SUNWsscs/ssdiagreporterd にインストールされます。Config Tool は /opt/SUNWsscs/ssdiagreporterui にインストールされます。

▼ IBM AIX ホストで Diagnostic Reporter をインストールするには

注 – Sun StorEdge Configuration Service のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。Sun StorEdge Configuration Service と互換性のある Java Runtime Environment ソフトウェアの最も古いリリースは 1.3 です。

1. Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストール先のコンピュータまたはワークステーション上に Java Runtime Environment ソフトウェアがインストールされていない場合は、ただちにインストールします。

Java Runtime Environment ソフトウェアのバージョンをチェックするには、次のように入力します。

```
# java -version
```

2. Sun StorEdge Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# mount -v cdrfs -o ro CD-drive
```


3. エージェントをインストールするには、次のように入力します。

```
# installp -a -d /cdrom/product/aix/SUNWscsd.bff
```

4. Config Tool (UI) をインストールするには、次のように入力します。

```
# installp -a -d /cdrom/product/aix/SUNWscui.bff
```

エージェントまたはコンソールのインストールが成功したら、インストールサマリーの結果列に「SUCCESS」が表示されます。

エージェントは /usr/SUNWsscs/ssdiagreporterd にインストールされます。Config Tool は /usr/SUNWsscs/ssdiagreporterui にインストールされます。

Sun StorEdge Diagnostic Reporter の手動による停止および起動

このセクションでは、Sun StorEdge Diagnostic Reporter を手動で停止および起動する方法を説明します。

注 - エージェント (デーモン) を起動および停止するには、スーパーユーザーである必要があります。

▼ Solaris または Linux ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止および起動するには

次のように入力します。

```
# /etc/init.d/ssdgrptd stop  
# /etc/init.d/ssdgrptd start
```

▼ Microsoft Windows NT ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止および起動するには

Sun StorEdge Configuration Service エージェントを停止するには、「設定」→「コントロールパネル」→「サービス」を選択し、停止するエージェントを選択して「停止」をクリックします。

エージェントソフトウェアをサーバー上で起動するには、サーバーをリブートするか、Sun StorEdge Diagnostic Reporter Service を、「設定」→「コントロールパネル」→「サービス」から起動する必要があります。

▼ Microsoft Windows 2000 または 2003 ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止および起動するには

1. Microsoft Windows 2000 ホストで、「スタート」→「プログラム」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」を選択します。

Microsoft Windows 2003 ホストで、「スタート」→「管理ツール」→「コンピュータの管理」を選択します。

あるいは、「マイコンピュータ」を右クリックして、「管理」を選択することもできます。

2. 「サービスとアプリケーション」をクリックします。
3. Sun StorEdge Diagnostic Reporter Server を選択し、起動または停止するサービスを右クリックします。

▼ HP-UX ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止および起動するには

次のように入力します。

```
# /sbin/init.d/ssdgrptd stop  
# /sbin/init.d/ssdgrptd start
```

▼ IBM AIX ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter を停止および起動するには

次のように入力します。

```
# /usr/sbin/ssdgrptd stop
# /usr/sbin/ssdgrptd start
```

Sun StorEdge Diagnostic Reporter のアンインストール

このセクションでは、Sun StorEdge Diagnostic Reporter をアンインストールする方法を説明します。

▼ Solaris ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をアンインストールするには

注 – フランス語、日本語、または中国語 (簡体字) の言語サポートを追加した場合は、英語版のパッケージをアンインストールする前にそれらをアンインストールする必要があります。

パッケージ名を指定して `pkgrm` コマンドを使用し、Sun StorEdge Diagnostic Reporter の 1 つまたは両方のコンポーネントを削除します。パッケージ名については、[51 ページの「Solaris OS 言語サポートに必要な Sun StorEdge Diagnostic Reporter のインストールパッケージ」](#)を参照してください。

▼ Linux ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をアンインストールするには

`rpm -e` コマンドの後に、アンインストールするパッケージ `SUNWscsa` (エージェント) または `SUNWscsi` (Config Tool) を指定します。

```
# rpm -e SUNWscsa
# rpm -e SUNWscui
```

▼ Microsoft Windows ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をアンインストールするには

Sun StorEdge Diagnostic Reporter を削除するには、Microsoft Windows の「アプリケーションの追加と削除」ユーティリティを使用してください。

1. **Microsoft Windows NT および Microsoft Windows 2000** ホストで、「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」を選択します。
Microsoft Windows 2003 ホストで、「スタート」→「コントロールパネル」→「アプリケーションの追加と削除」を選択します。
2. **Sun StorEdge Diagnostic Reporter** アプリケーションを選択し、「追加と削除」を選択します。
プロンプトに対して適切に答えます。

▼ HP-UX ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をアンインストールするには

swremove コマンドの後に、アンインストールするパッケージ SUNWscsa (エージェント) または SUNWscsi (Config Tool) を指定します。

```
# swremove SUNWscsa  
# swremove SUNWscui
```

▼ IBM AIX ホストで Sun StorEdge Diagnostic Reporter をアンインストールするには

installp -u コマンドの後に、アンインストールするパッケージ SUNWscsa (エージェント) または SUNWscsi (Config Tool) を指定します。

```
# installp -u SUNWscsa  
# installp -u SUNWscui
```

コマンド行インタフェースのインストールとアクセス

この章では、Solaris、Linux、HP-UX、IBM AIX、Microsoft Windows NT、Microsoft Windows 2000、および Microsoft Windows 2003 ホストにコマンド行インタフェース (CLI) をインストールする方法を説明します。CLI を使用すると、ファームウェアアプリケーションまたは Sun StorEdge Configuration Service のメニューオプションを選択して実行する操作の多くを実行できます。CLI コマンドには、スクリプト可能であるという利点があります。そのため、大規模なデータセンターの環境で多数のアレイを同様な構成にする必要がある場合に特に便利です。この章でふれるトピックは以下のとおりです。

- 61 ページの「CLI をインストールする前に」
- 62 ページの「システム要件」
- 62 ページの「ソフトウェアのインストール」
- 66 ページの「CLI のアンインストール」

CLI をインストールする前に

- 使用しているアレイ用のリリースノートを必ずお読みください。
- 論理デバイスがプライマリコントローラにマップされていることを確認してください。

システム要件

表 8-1 に各サポート対象プラットフォームのシステム要件を示します。

表 8-1 CLI のシステム要件

OS バージョン	ディスク空き容量
Solaris 2.6 SPARC プラットフォームの Solaris 8 および Solaris 9 Solaris 9 x86 Platform Edition (9/08/03)	4 M バイト以上
Microsoft Windows NT 4.0 Microsoft Windows 2000 Microsoft Windows 2003	3 M バイト以上
Sun LX50 サーバーの Sun Linux 5.0 (SCSI のみ) Red Hat Advanced Server 2.1	3 M バイト以上
HP-UX 11.0 および 11i	3 M バイト以上
IBM AIX 4.3.3 および 5.1L	4 M バイト以上

ソフトウェアのインストール

このセクションでは、インストールパッケージの内容を紹介し、それぞれのサポート対象プラットフォームでの CLI のインストール手順について説明します。

注 - CLI をインストールするには、スーパーユーザー (管理者) になります。

インストールパッケージ

CLI インストールパッケージは、Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD にあり、表 8-1 に示すファイルが含まれています。本パッケージは、アレイに接続されているサーバーにインストールする必要があります。

表 8-1 コマンド行インタフェースのインストールパッケージ

Solaris OS	Microsoft Windows OS	Linux OS	HP-UX OS	IBM AIX OS
SUNWsccli	SUNWsccli.exe	SUNWsccli-linux.rpm	SUNWsccli-hp-ux.depot	SUNWsccli-aix.bff

▼ Solaris ホストで CLI をインストールするには

1. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# pkgadd -d/cdrom/cdrom0/product/solaris SUNWsccli
```

2. CLI にアクセスするには、CLI をインストールしたサーバー（アレイに接続されたサーバー）に root としてログインし、次のように入力します。

```
# sccli (オプションとサブコマンド)
```

オプションとサブコマンドのリストは、man ページを参照してください。

注 - PATH 環境変数に /usr/sbin がない場合は、/usr/sbin/sccli として CLI を呼び出すことができます。

CLI は /opt/SUNWsscs/sbin/sccli にインストールされます。

▼ 日本語版の man ページをインストールするには

Solaris 用の CLI は、日本語版の man ページを提供しています。日本語版の man ページをインストールするには、Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# pkgadd -d /cdrom/cdrom0/product/solaris SUNWjsccl
```

▼ Microsoft Windows ホストで CLI をインストールするには

1. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、ディレクトリを \product\windows に変更します。
2. setup.exe をダブルクリックし、Sun StorEdge Command-Line Interface を選択します。
デフォルトのインストールディレクトリは、C:\Program Files\Sun\sccli です。

3. 管理するデバイスと同じマシン上に CLI がインストールされる場合、CLI にアクセスするには、「スタート」→「プログラム」→「Sun StorEdge 3000 Family」→「コマンド行インタフェース」を選択します。
4. 管理するデバイスと異なるマシン上に CLI がインストールされる場合、CLI にアクセスするには、「スタート」→「ファイル名を指定して実行」を選択し、`sccli` に続いて管理するデバイスの IP アドレスを入力します。

▼ Linux ホストで CLI をインストールするには

1. ファイルシステムに CD ドライブがマウントされていない場合は、マウントします。

```
# mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

2. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# cd /mnt/cdrom/product/linux
```

3. 次のように入力します。:

```
# rpm -ivh SUNWsccli.rpm
```

CLI にアクセスするには、CLI をインストールしたサーバー（アレイに接続されたサーバー）に `root` としてログインし、次のように入力します。

```
# sccli (オプションとサブコマンド)
```

オプションとサブコマンドのリストは、`man` ページを参照してください。

CLI は `/opt/SUNWsscs/sbin/sccli` にインストールされます。

▼ HP-UX ホストで CLI をインストールするには

1. CD 用のマウントポイントが作成されていることを確認します。
2. Sun StorEdge 3000 Family Professional Storage Manager CD を挿入します。
3. CD のデバイス エントリを決めます。

```
# ioscan -fnC disk
```

デバイスエントリを、たとえば次のように示します。

```
/dev/dsk/c2t5d0
```

4. ファイルシステムに CD がマウントされていない場合は、マウントします。

```
# mount -r device-entry mounting-point
```

5. 次のように入力します。

```
# swinstall -s /cdrom/product/hpux/SUNWsccli-hpux.depot
```

CLI は /opt/SUNWsscs/sbin/sccli にインストールされます。

▼ IBM AIX ホストで CLI をインストールするには

1. Sun StorEdge Professional Storage Manager CD を挿入し、次のように入力します。

```
# mount -v cdrfs -o ro CD-drive
```

2. 次のように入力します。

```
# installp -a -d /cdrom/product/aix/SUNWsccli-aix.bff
```

CLI のインストールが成功したら、インストールサマリーの結果列に「SUCCESS」が表示されます。

CLI は /usr/SUNWsscs/sbin/sccli にインストールされます。

CLI のアンインストール

このセクションでは、CLI をアンインストールする方法を説明します。

▼ Solaris ホストで CLI をアンインストールするには

CLI をアンインストールするには、`pkgrm` コマンドを使用します。

```
# pkgrm SUNWsccli
```

▼ 日本語版の man ページをアンインストールするには

日本語版の man ページをインストールしている場合は、`pkgrm` コマンドを使用してアンインストールします。

```
# pkgrm SUNWjsc1
```

▼ Microsoft Windows ホストで CLI をアンインストールするには

CLI を削除するには、Microsoft Windows の「アプリケーションの追加と削除」ユーティリティを使用してください。

1. 「スタート」 → 「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「アプリケーションの追加と削除」を選択します。
2. `SUNWsccli` を選択し、「追加と削除」を選択します。
プロンプトに対して適切に答えます。

▼ Linux ホストで CLI をアンインストールするには

CLI をアンインストールするには、`rpm -e` コマンドを使用します。

```
# rpm -e SUNWsccli
```

▼ HP-UX ホストで CLI をアンインストールするには

CLI をアンインストールするには、`swremove` コマンドを使用します。

```
# swremove SUNWsccli
```

▼ IBM AIX ホストで CLI をアンインストールするには

CLI をアンインストールするには、`installp -u` コマンドを使用します。

```
# installp -u SUNWsccli
```


索引

C

cfg.tag ファイル, 15

CLI

HP-UX ホスト

インストールディレクトリ, 65

システム要件, 62

IBM AIX ホスト

インストールディレクトリ, 65

システム要件, 62

Linux ホスト

インストールディレクトリ, 64

システム要件, 62

Microsoft Windows ホスト

インストールディレクトリ, 63

システム要件, 62

Solaris ホスト

インストールディレクトリ, 63

システム要件, 62

インストール

インストールパッケージ, 62

システム要件, 62

はじめに, 1, 61

Config Tool

Sun StorEdge Diagnostic Reporter

HP-UX ホスト

インストール, 55

インストールディレクトリ, 56

IBM AIX ホスト

インストール, 56

インストールディレクトリ, 57

Linux ホスト

インストール, 54

インストールディレクトリ, 55

Microsoft Windows ホスト

インストール, 53

インストールディレクトリ, 53

Solaris ホスト

インストール, 52

インストールディレクトリ, 53

言語サポート, 52

H

HP-UX ホスト

CLI

アンインストール, 67

インストール, 65

システム要件, 62

Sun StorEdge Configuration Service

アンインストール, 40

インストール, 33

エージェントの停止と起動, 37

システム要件, 33

パスワードの作成, 39

Sun StorEdge Diagnostic Reporter

アンインストール, 60

インストール, 49

システム要件, 50

停止と起動, 58

I

IBM AIX ホスト

CLI

- アンインストール, 67
- インストール, 65
- システム要件, 62
- Sun StorEdge Configuration Service
 - アンインストール, 47
 - インストール, 41
 - エージェントの停止と起動, 44
 - システム要件, 41
 - パスワードの作成, 45
- Sun StorEdge Diagnostic Reporter
 - アンインストール, 60
 - インストール, 55
 - システム要件, 50
 - 停止と起動, 59
- installp -u コマンド, 47

J

- Java Runtime Environment
 - Sun StorEdge Configuration Service の要件
 - HP-UX ホスト, 35
 - IBM AIX ホスト, 43
 - Linux ホスト, 27
 - Microsoft Windows ホスト, 19
 - Solaris ホスト, 7
 - Sun StorEdge Diagnostic Reporter の要件
 - HP-UX ホスト, 55
 - IBM AIX ホスト, 56
 - Linux ホスト, 54
 - Solaris ホスト, 52
 - バージョンの確認
 - HP-UX ホスト, 35
 - IBM AIX ホスト, 43
 - Linux ホスト, 27
 - Solaris ホスト, 10, 15

L

- Linux ホスト
 - CLI
 - アンインストール, 67
 - インストール, 64
 - システム要件, 62
 - Sun StorEdge Configuration Service
 - アンインストール, 32

- エージェントの停止と起動, 29
- システム要件, 25
- パスワードの作成, 30
- Sun StorEdge Diagnostic Reporter
 - アンインストール, 59
 - インストール, 54
 - システム要件, 50
 - 停止と起動, 57

M

- man ページ
 - 日本語版
 - アンインストール, 63
 - インストール, 63
- Microsoft Internet Explorer
 - サポート対象バージョン
 - Microsoft Windows ホスト, 17
- Microsoft Windows ホスト
 - CLI
 - アンインストール, 66
 - インストール, 63
 - システム要件, 62
 - Sun StorEdge Configuration Service
 - アンインストール, 23
 - インストール, 17
 - 起動と停止, 20
 - システム要件, 17
 - パスワードの作成, 21
 - Sun StorEdge Diagnostic Reporter
 - アンインストール, 60
 - インストール, 53
 - システム要件, 50
 - 停止と起動, 58

N

- Netscape Navigator
 - IBM AIX
 - インストールディレクトリ, 44
 - サポート対象バージョン
 - HP-UX ホスト, 33
 - IBM AIX ホスト, 41
 - Linux ホスト, 25
 - Microsoft Windows ホスト, 17
 - Solaris ホスト, 4

O

OS

- インストール前に, 2
- 同じ ID で複数の LUN を認識, 2
- システム要件
 - Sun StorEdge Configuration Service
 - HP-UX ホスト, 33
 - IBM AIX ホスト, 41
 - Linux ホスト, 25
 - Microsoft Windows ホスト, 18
 - Solaris ホスト, 4
 - Sun StorEdge Diagnostic Reporter
 - HP-UX ホスト, 50
 - IBM AIX ホストへのインストール, 50
 - Linux ホスト, 50
 - Microsoft Windows ホスト, 50
 - Solaris ホスト, 50

P

- pkggrm コマンド, 14, 66

R

- rpm -e コマンド, 32

S

- sccli コマンド, 63
- sd.conf ファイル、編集, 10
- SNMP サービスオプション, 2
- Solaris ホスト
 - CLI
 - アンインストール, 66
 - インストール, 63
 - システム要件, 62
 - Sun StorEdge Configuration Service
 - アンインストール, 14
 - インストール, 4
 - 言語サポート, 6
 - システム要件, 4
 - 停止と起動, 12
 - Sun StorEdge Diagnostic Reporter
 - アンインストール, 59
 - インストール, 52
 - 言語サポート, 51

- システム要件, 50
- 停止と起動, 57
- ssadmin 名, 12, 21, 30, 38, 45
- ssconfig 名, 12, 21, 30, 38, 45
- ssmon 名, 12, 21, 30, 38, 45
- sstrapd 名, 30
- Sun StorEdge 3310 SCSI アレイ
 - Solaris ホストへの Sun StorEdge Configuration Service のインストール前に, 2
 - Sun StorEdge Configuration Service のインストール前に, 2
- Sun StorEdge 3510 FC アレイ
 - Sun StorEdge Configuration Service のインストール前に, 2
- Sun StorEdge 3511 FC アレイ
 - Sun StorEdge Configuration Service のインストール前に, 2
- Sun StorEdge Configuration Service
 - HP-UX ホストへのインストール, 33
 - インストールコンポーネント, 34
 - エージェント, 35
 - コンソール, 35
 - コンソールの表示, 36
 - 手動によるエージェントの停止と起動, 37
 - パスワードの作成, 38
 - ユーザーの作成, 38
- IBM AIX ホストへのインストール, 41
 - アンインストール, 47
 - インストールコンポーネント, 42
 - エージェント, 43
 - コンソール, 43
 - システム要件, 41
 - 手動によるエージェントの停止と起動, 44
 - パスワードの作成, 45
 - ユーザーの作成, 45
- Linux ホストへのインストール, 25
 - Config Tool, 54
 - アンインストール, 32
 - インストールコンポーネント, 26
 - システム要件, 25
 - 手動によるエージェントの停止と起動, 29
 - パスワードの作成, 30
 - ユーザーの作成, 30
- Microsoft Windows でのインストール
 - 手動によるエージェントの停止と起動, 20, 58

- Microsoft Windows ホストへのインストール, 17
 - アンインストール, 23
 - インストールコンポーネント, 18
 - エージェント, 19
 - コンソール, 19
 - システム要件, 17
 - 手動によるエージェントの停止と起動, 20
 - パスワードの作成, 22
 - ユーザーの作成, 22
 - Solaris ホストへのインストール, 4
 - アンインストール, 14
 - インストールコンポーネント, 5
 - エージェント, 7
 - エージェント (英語版) だけをインストール, 7
 - エージェントが実行されているか確認, 11
 - オプション言語サポートを追加, 7
 - 構成の復元, 15
 - コンソール, 7
 - システム要件, 4
 - 手動によるエージェントの停止と起動, 11
 - スーパーユーザー要件, 1
 - トラブルシューティング, 15
 - はじめに, 1, 3
 - パスワードの作成, 12
 - ユーザーの作成, 12
 - Sun StorEdge Diagnostic Reporter
 - HP-UX ホストへのインストール
 - Config Tool, 55
 - エージェント, 55
 - 手動によるエージェントの停止と起動, 58
 - IBM AIX ホストへのインストール
 - Config Tool, 56
 - エージェント, 56
 - 手動によるエージェントの停止と起動, 59
 - Linux ホスト
 - エージェント, 54
 - Linux ホストへのインストール
 - Config Tool, 55
 - エージェント, 54
 - 手動によるエージェントの停止と起動, 57
 - Microsoft Windows ホストへのインストール
 - Config Tool, 53
 - エージェント, 53
 - 手動によるエージェントの停止と起動, 58
 - Solaris ホストへのインストール
 - Config Tool, 52
 - エージェント, 52
 - エージェント (英語版) だけをインストール, 52
 - オプション言語サポートを追加, 53
 - UI のインストール, 54
 - アンインストール, 59
 - インストール, 50
 - はじめに, 1
 - インストールエラーメッセージ, 54
 - サービスのインストール, 54
 - システム要件, 50
 - フルインストール, 54
 - svrlist.dat ファイル, 13, 32, 39, 47
- ## T
- TCP/IP
 - システム要件
 - HP-UX ホスト, 33
 - IBM AIX ホスト, 41
 - Linux ホスト, 25
 - Microsoft Windows ホスト, 17
 - Solaris ホスト, 4
- ## W
- Web ブラウザ
 - 構成
 - HP-UX ホスト, 37
 - IBM AIX ホスト, 44
 - Linux ホスト, 28
 - Solaris ホスト, 10
 - サポート対象バージョン
 - HP-UX ホスト, 33
 - IBM AIX ホスト, 41
 - Linux ホスト, 25
 - Microsoft Windows ホスト, 17
 - Solaris ホスト, 4
- ## あ
- アンインストール
 - CLI
 - HP-UX ホスト, 67
 - IBM AIX ホスト, 67
 - Linux ホスト, 67

- Microsoft Windows ホスト, 66
- Solaris ホスト, 66
- Sun StorEdge Configuration Service
 - HP-UX ホスト, 40
 - IBM AIX ホスト, 47
 - Linux ホスト, 32
 - Microsoft Windows ホスト, 23
 - Solaris ホスト, 14
- Sun StorEdge Diagnostic Reporter
 - HP-UX ホスト, 60
 - IBM AIX ホスト, 60
 - Linux ホスト, 59
 - Microsoft Windows ホスト, 60
 - Solaris ホスト, 59

い

インストール

CLI

- HP-UX ホスト, 65
- IBM AIX ホスト, 65
- Linux ホスト, 64
- Microsoft Windows ホスト, 63
- Solaris ホスト, 63
- インストールパッケージ, 62
- スーパーユーザー要件, 1
- はじめに, 1

Sun StorEdge Configuration Service

HP-UX ホスト

- インストールコンポーネント, 34
- インストールパッケージ, 35
- エージェント, 35
- コンソール, 35
- コンソールの表示, 36

IBM AIX ホスト

- インストールコンポーネント, 42
- インストールパッケージ, 42
- エージェント, 43
- コンソール, 43

Linux ホスト

- インストールコンポーネント, 26
- インストールパッケージ, 27

Microsoft Windows ホスト

- インストールコンポーネント, 18
- インストールパッケージ, 19
- エージェント, 19
- コンソール, 19

Solaris ホスト

- インストールコンポーネント, 5
- エージェント, 7
- コンソール, 7
- スーパーユーザー要件, 1
- はじめに, 3
- はじめに, 1

Sun StorEdge Diagnostic Reporter, 50

HP-UX ホスト

- Config Tool, 55
- エージェント, 55

IBM AIX ホスト

- エージェント, 56

Linux ホスト

- Config Tool, 54
- エージェント, 54

Microsoft Windows ホスト

- Config Tool, 53
- エージェント, 53

Solaris ホスト

- Config Tool, 52
- エージェント, 52
- バージョン 1.3 インストールパッケージ, 51
- エラー メッセージ, 54
- スーパーユーザー要件, 1
- はじめに, 1

え

エージェント

Sun StorEdge Configuration Service

HP-UX ホスト

- アンインストール, 40
- インストール, 35
- インストールディレクトリ, 36
- システム要件, 34
- 実行されているか確認, 37
- 手動による停止と起動, 37

IBM AIX ホスト

- アンインストール, 47
- インストール, 43
- インストールディレクトリ, 44
- システム要件, 42
- 実行されているか確認, 45
- 手動による停止と起動, 44

Linux ホスト

- アンインストール, 32
- インストール, 27
- インストールディレクトリ, 29

システム要件, 26

実行されているか確認, 29

手動による停止と起動, 29

Microsoft Windows ホスト

アンインストール, 23

インストール, 19

インストールディレクトリ, 20

手動による停止と起動, 20, 58

Solaris ホスト

アンインストール, 14

インストール, 7

インストールディレクトリ, 10

言語サポート, 6

実行されているか確認, 11

手動による停止と起動, 11

Sun StorEdge Diagnostic Reporter

HP-UX ホスト

アンインストール, 60

インストール, 55

インストールディレクトリ, 56

手動による停止と起動, 58

IBM AIX ホスト

アンインストール, 60

インストール, 56

インストールディレクトリ, 57

手動による停止と起動, 59

Linux ホスト

アンインストール, 59

インストール, 54

インストールディレクトリ, 55

手動による停止と起動, 57

Microsoft Windows ホスト

アンインストール, 60

インストール, 53

インストールディレクトリ, 53

手動による停止と起動, 58

Solaris ホスト

アンインストール, 59

インストール, 52

インストールディレクトリ, 53

言語サポート, 51

エラー メッセージ

Sun StorEdge Diagnostic Reporter, 54

お

オペレーティングシステム、「OS」を参照。

オンラインヘルプ

ブラウザの構成

Sun StorEdge Configuration Service

HP-UX ホスト, 37

IBM AIX ホスト, 44

Linux ホスト, 28

Solaris ホスト, 10

か

簡易ネットワーク管理システム、「SNMP サービス オプション」を参照。

け

言語サポート

追加

Sun StorEdge Configuration Service

Solaris ホスト, 7

Sun StorEdge Diagnostic Reporter

Solaris ホスト, 53

こ

構成

Solaris ホストでの復元, 15

構成の復元

Sun StorEdge Configuration Service

Solaris ホスト, 15

コマンド行インタフェース、「CLI」を参照。

コンソール

Sun StorEdge Configuration Service

HP-UX ホスト

インストール, 35

インストールディレクトリ, 36

システム要件, 33

表示, 36

IBM AIX ホスト

インストール, 43

インストールディレクトリ, 44

システム要件, 41

Linux ホスト

インストールディレクトリ, 29

システム要件, 25

Microsoft Windows ホスト

インストール, 19

インストールディレクトリ, 20

システム要件, 18

Solaris ホスト

インストール, 7
インストールディレクトリ, 10
システム要件, 4

し

システム要件
CLI, 62
Sun StorEdge Configuration Service
HP-UX ホスト, 33
IBM AIX ホスト, 41
Linux ホスト, 25
Microsoft Windows ホスト, 18
Solaris ホスト, 4
Sun StorEdge Diagnostic Reporter, 50

せ

セキュリティレベル
HP-UX ホスト, 38
IBM AIX ホスト, 45
Linux ホスト, 30
Microsoft Windows ホスト, 21
Solaris ホスト, 12

ち

中国語 (簡体字) の言語サポート
Sun StorEdge Configuration Service への追加
Solaris ホスト, 7
Sun StorEdge Diagnostic Reporter への追加
Solaris ホスト, 52

て

ディスク空き容量要件
CLI, 62
Sun StorEdge Configuration Service
HP-UX ホスト, 33
IBM AIX ホスト, 41
Linux ホスト, 25
Microsoft Windows ホスト, 18
Solaris ホスト, 4
Sun StorEdge Diagnostic Reporter, 50

に

日本語の言語サポート
Solaris ホスト
man page, 63
アンインストール, 66
Sun StorEdge Configuration Service への追加
Solaris ホスト, 7
Sun StorEdge Diagnostic Reporter への追加
Solaris ホスト, 52

は

パスワード
作成
HP-UX ホスト, 39
IBM AIX ホスト, 46
Linux ホスト, 31
Microsoft Windows ホスト, 22
Solaris ホスト, 13

ふ

フランス語の言語サポート
Sun StorEdge Configuration Service への追加
Solaris ホスト, 7
Sun StorEdge Diagnostic Reporter への追加
Solaris ホスト, 52

め

メモリー要件
Sun StorEdge Configuration Service
Solaris ホスト, 4
メモリー要件
Sun StorEdge Configuration Service
HP-UX ホスト, 33
IBM AIX ホスト, 41
Linux ホスト, 25
Microsoft Windows ホスト, 18
Sun StorEdge Diagnostic Reporter, 50

も

モニター
システム要件

HP-UX ホスト, 33
IBM AIX ホスト, 41
Linux ホスト, 25
Microsoft Windows ホスト, 17
Solaris ホスト, 4

ゆ

ユーザー

作成

HP-UX ホスト, 38
IBM AIX ホスト, 45
Linux ホスト, 30
Microsoft Windows ホスト, 22
Solaris ホスト, 12